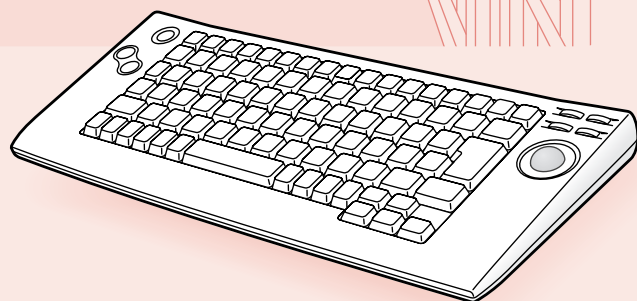
SHARP®

パーソナルコンピュータ

形名 PC-TX32J

取扱説明書

パソコンとして使うときの注意事項や購入時の状態に戻す方法などを説明しています。

この説明書の読み方

この説明書の表記方法

この説明書で使用している記号について

	パソコンや周辺機器の故障の原因になる注意事項を記載しています。
	参考情報や関連事項、操作上の制限事項などを記載しています。
	この説明書の参照ページや、参照する他の説明書を示します。

キーの表示について

キーボードのキーを押す操作では、キーを枠で囲んでいます。
また、あるキーを押しながら他のキーを押すときは、「+」でつないで表記しています。

例） Alt + F4

記載の画面について

この説明書に記載の画面は実際の画面と異なる場合があります。
また、操作状況やパソコンの状態によって表示が異なる項目などは「XXXXXX」で表しています。

例）

画面上のボタンについて

画面に表示されるボタン（ OK など）は、[　] で囲んで表記しています。

例）[OK] をクリックします。

画面上のメニュー項目などについて

メニュー項目や画面、アイコンの名称などは、「　」で囲んで表記しています。

例）

・「コントロールパネル」をクリックします。

・「画面のプロパティ」画面が表示されます。

文字入力について

キーボードを使って文字を入力する内容は、太字または「　」で囲み、小文字で表記しています。特に指定がない限り半角文字を入力してください。

例）**c:¥mnmanual¥sample.bmp**と入力します。

コントロールパネルの表示について

コントロールパネルの表示にはカテゴリの表示とクラシック表示があります。
この説明書では、カテゴリの表示で説明しています。

「カテゴリの表示」画面

ここをクリックすると「クラシック表示」画面に切り替わります。

「クラシック表示」画面

ここをクリックすると「カテゴリの表示」画面に切り替わります。

※画面は一例です。表示されるアイコンの種類や数は実際の画面と異なる場合があります。

もくじ

基本

通信

周辺機器

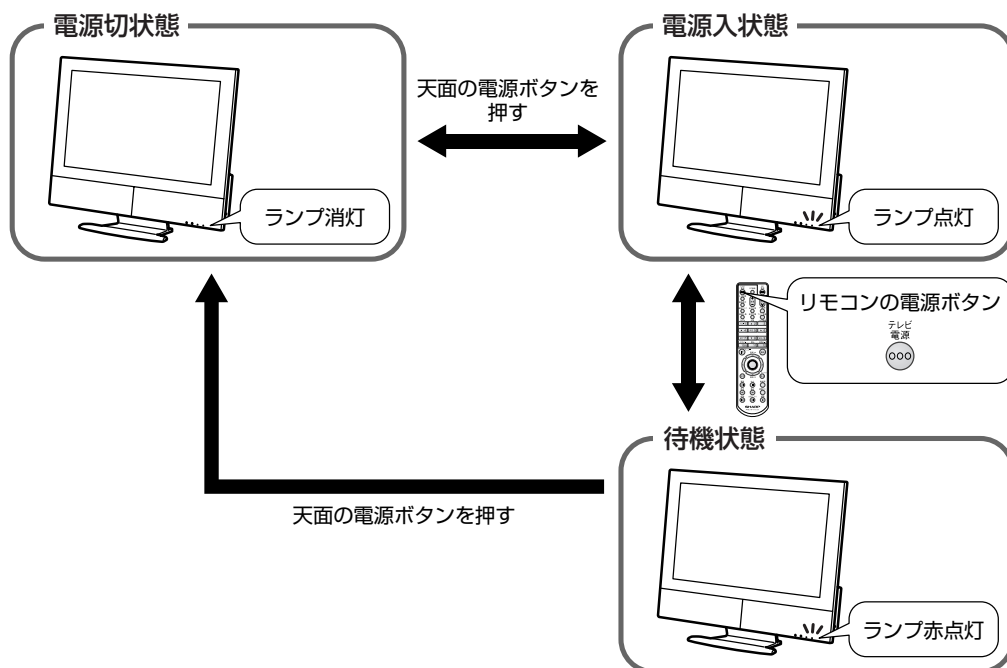
万一に備えて

困ったときは

付録

電源の操作

モニターの電源を入れる・切る

基本的な電源の入れ方・切り方を確認しましょう。

電源を入れる

はじめて電源を入れるときは、**取扱説明書　接続と準備**（別冊）を参照してください。

1 **モニターの電源ランプが赤色に点灯しているとき、リモコンの テレビ電源 を押します。**

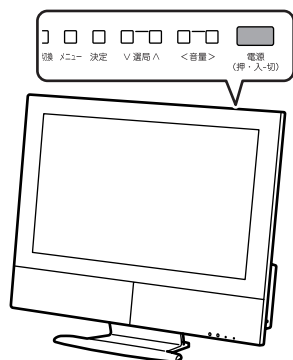
モニターの電源ランプが緑色（またはオレンジ色）に点灯します。

ご参考

- 電源を入れると、モニターの画面モードが数秒間、画面に表示されます。

画面が表示されるまで、少し時間がかかることがあります。

電源ランプが消えているときは

モニター天面の［電源］を押します。

電源を切る

1 **リモコンの テレビ電源 を押します。**

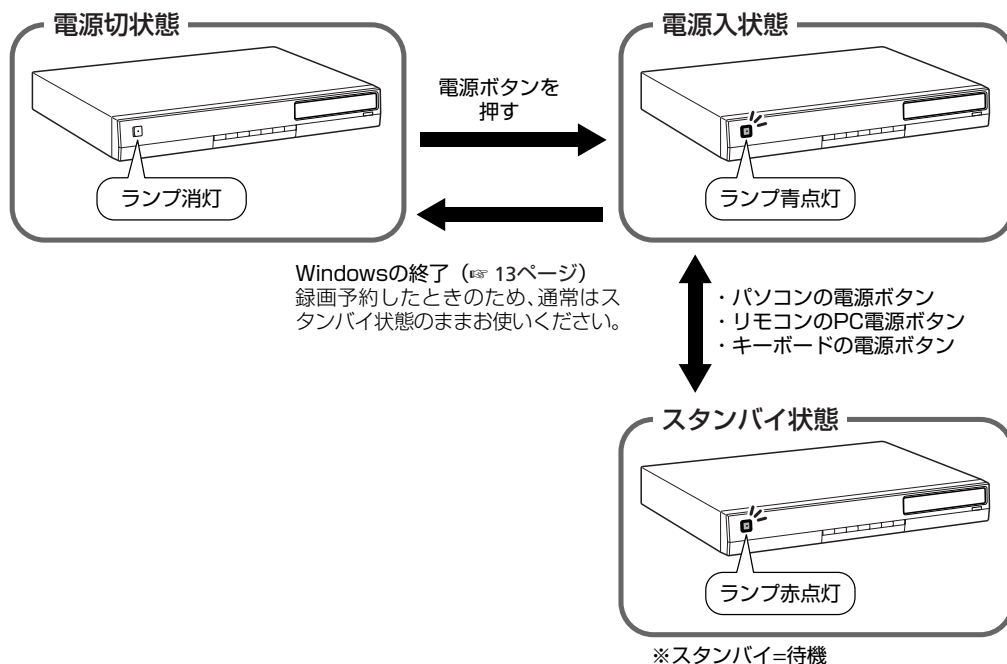
モニターの電源ランプが赤色に変わります。

2 **モニター天面の［電源］を押します。**

モニターの電源ランプが消灯します。

基本

パソコンの電源を入れる・スタンバイにする

基本的な電源の入れ方と、スタンバイ(待機状態)への移行方法を確認しましょう。

電源を入れる

はじめて電源を入れるときは、**取扱説明書　接続と準備**(別冊)を参照してください。

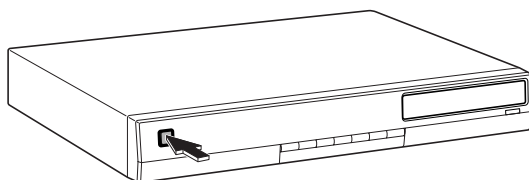
1 **モニターの電源を入れます。**

2 **リモコンの 入力切換 を押します。**

「入力切換」メニューが表示されます。

3 **入力切換 を押して「PC アナログ」を選びます。**

「入力切換」メニューは、数秒間ボタン操作がないと、自動的に消えます。

4 **[電源] を押します。**

電源ランプが青色に点灯し、Windows が起動します。

基本

ご注意

- 電源を入れてパソコンが起動するまでは、必要なとき以外はキーボードやトラックボール、リモコンに触らないでください。正常に起動できなくなる場合があります。

ご参考

- 電源ランプが赤色に点灯しているとき（スタンバイ）は、キーボードの［電源］またはリモコンの［PC 電源］（ PC電源 ）を押すとスタンバイから復帰することができます。
- 複数のユーザーアカウントが設定されているときは、「ようこそ」画面で使用するユーザーアカウントをクリックして選択してください。
- 一定時間パソコンを操作しないでいると、節電機能が働いて画面の表示が消えます。［電源］を押すと、再び表示されます。

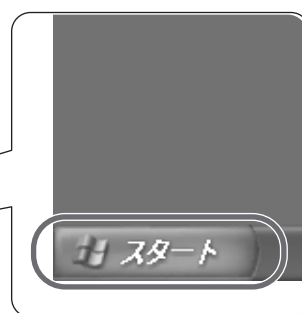
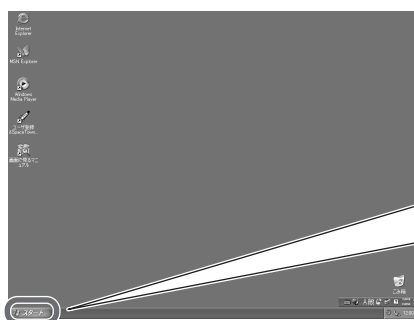
スタンバイにする

電源ボタンでスタンバイにする

1 **電源オンの状態で、パソコンの［電源］、キーボードの［電源］、リモコンの PC電源 のいずれかを押します。**

電源ランプが赤色に点灯し、スタンバイに移行します。

スタートメニューからスタンバイにする

1 **［スタート］をクリックします。**

スタートメニューが表示されます。

2 **「終了オプション」をクリックします。**

3 「スタンバイ」をクリックします。

電源ランプが赤色に点灯し、スタンバイに移行します。

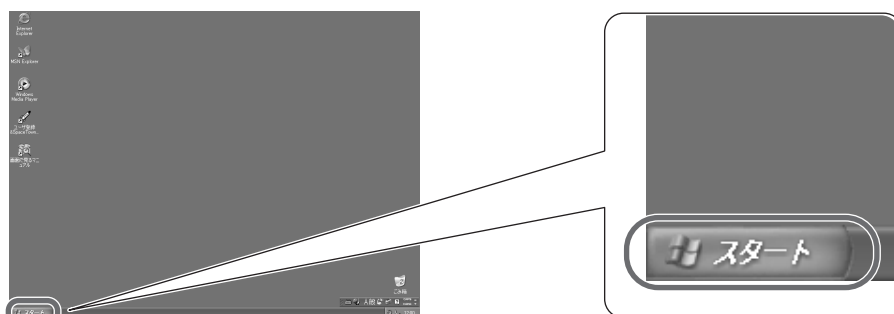
ご注意

- 録画予約したときは、電源を切らないで「スタンバイ」にしてください。「電源を切る」(☞次ページ)にすると、設定時刻になっても予約録画されません。
- スタンバイの状態で、停電などにより電源が切れると、保存していないデータはすべて消えてしまいます。編集中・作業中のデータがあるときは、スタンバイにする前に、必ずデータを保存しておきましょう。
- 電源を入れ直すときは、必ず一定以上の間隔をおいてください。連続して電源を切ったり入れたりすると、故障の原因になります。
  ・モニター:約5秒以上
  ・パソコン:約10秒以上

ご参考

- 「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています」と表示されたときは、[いいえ]をクリックし、ほかのユーザーアカウントの作業を終了してください。
- 「電源を切る」(☞次ページ)にすると、パソコンの電源ランプが消灯し、キーボードやリモコンでパソコンの電源を入れることはできなくなります。パソコンの[電源]を押してください。

電源を切る

1 [スタート] をクリックします。

2 「終了オプション」をクリックします。

3 「電源を切る」をクリックします。

パソコンの電源が切れ、電源ランプが消えます。

ご注意

- 録画予約したときは、電源を切らないで「スタンバイ」にしてください。「電源を切る」(☞ 上記)にすると、設定時刻になっても予約録画されません。

モニターの表示を変える

モニターの解像度や色数を変えることができます。

解像度や色数を変える

パソコンのモニターは、解像度や色数を変更することができます。通常はご購入時の設定のままお使いください。

1 **[スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。**

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **「デスクトップの表示とテーマ」をクリックします。**

「デスクトップの表示とテーマ」が見つからないときは、「コントロールパネル」欄の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックして表示させてください。

（コントロールパネルの表示について ☞3 ページ）

3 **「画面解像度を変更する」をクリックします。**

「画面のプロパティ」画面が表示されます。

4 **解像度を変えるときは、「画面の解像度」のつまみをドラッグして動かします。色数を変えるときは、「画面の色」の ▼ をクリックして、メニューから色数を選びます。**

ご参考

- テレビを見ているときや、DVDや動画ファイルなどを再生しているときは、色数および解像度を変更しないでください。画面が正常に表示されなくなる場合があります。

5 **［OK］をクリックして「画面のプロパティ」画面を閉じます。**

変更した項目（色または解像度）の確認メッセージが表示されます。
メッセージに従って操作してください。

6 **画面右上の ☒ をクリックして「デスクトップの表示とテーマ」画面を閉じます。**

設定可能な解像度と色数

解像度（ドット）	800 × 600、1024 × 768、1280 × 768、1360 × 768
色数	65536 色、約 1677 万色

ご参考

- 「画面の色」の設定と表示の色数は以下のとおりです。
  中（16 ビット）　：65536 色
  最高（32 ビット）：約 1677 万色

基本

フロッピーディスクを使う

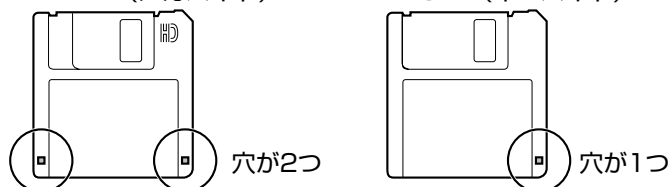
フロッピーディスク(FD)には、文書データなど比較的小さいデータを保存できます。

フロッピーディスクドライブについて

このパソコンにはフロッピーディスクドライブは内蔵されていません。以下のものをお買い求めください。

・USB 接続 FD ドライブユニット　　　　CE-FD05

フロッピーディスクについて

フロッピーディスクには、2HD と 2DD の 2 種類があります。

使用できるフロッピーディスク

- 2HD(1.44MB)の「DOS/V 用」と表示されたものを選んでください。
フロッピーディスクを購入するときは、「DOS/V 用」(「DOS/V 機器対応」「DOS/V フォーマット済み」)と表示されたものを選んでください。
- その他の2HD(1.44MB)のフロッピーディスクはフォーマットすると使えます。「DOS/V 用」以外のフロッピーディスクは、フォーマット(初期化)すると、「DOS/V 用」として使えるようになります。(☞19 ページ)

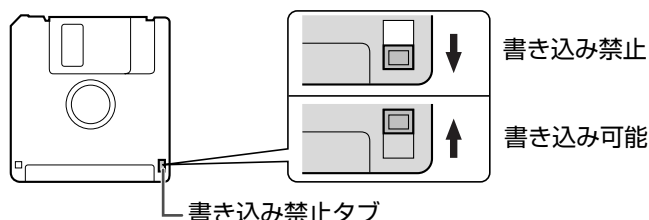
ご注意

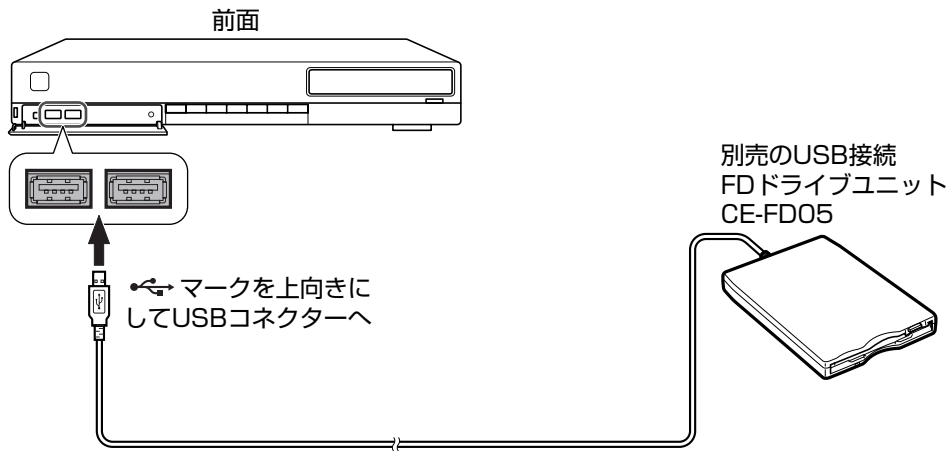
- フォーマットすると、フロッピーディスク内のデータはすべて消えてしまいます。大切なデータが入っていないか、あらかじめ確認してください。

ご参考

- 2DD(720KB)および2HD-1.2MB タイプのフロッピーディスクも使用できますが、使用上の制限事項があります。(☞55 ページ)

書き込み禁止タブについて

フロッピーディスクには、保存したデータを誤って消してしまわないように、書き込み禁止タブがついています。データを保存するときは、必ず書き込み可能の位置にしてください。書き込み禁止状態でもデータを読み込むことはできます。

フロッピーディスクドライブを接続する

パソコンの電源を入れたまま接続できます。
USB コネクターはパソコンの前面と後面に 2 つずつあります。いずれのコネクターに接続してもかまいません。

ご参考

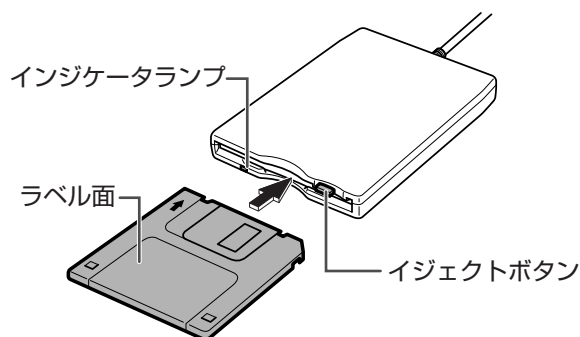
- このパソコンには、USB 接続 FD ドライブユニット (CE-FD05) 用ドライバーがあらかじめ保存されています。はじめてUSB 接続FD ドライブユニット (CE-FD05) を接続したとき、ドライバーが自動的にインストールされますので、そのままご使用になれます。

フロッピーディスクドライブを取り外す

取り外す前にデバイスを停止する必要があります。**USB 機器を取り外す** (☞38 ページ) を参照して、デバイスを停止してからUSB 接続ケーブルを取り外してください。

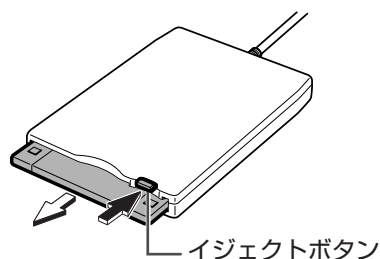
フロッピーディスクに保存する

1 **フロッピーディスクドライブに、書き込み可能状態（☞16ページ）にしたフロッピーディスクを入れます。**

ラベル面を上にして差し込んでください。

正しく差し込まれると、イジェクトボタンが少し飛び出します。
斜めに入れたり、上下を逆にしたりして、無理に押し込まないでください。

2 **使用しているアプリケーションソフトで、「保存する場所」を「3.5インチFD（A:）」に指定して、作成したデータを保存します。**

3 **インジケータランプが消えていることを確認し、イジェクトボタンを押します。**

フロッピーディスクの端が少し出てきて、取り出すことができます。

> **ご注意**
>
> **インジケータランプ点灯中はディスクを取り出さないでください**
>
> - 点灯中はディスクへの書き込みが実行されています。途中でディスクを抜くと、データが失われたり、破損したりすることがあります。

フロッピーディスクをフォーマット（初期化）する

フロッピーディスクをフォーマットすると、新しいディスクとして使用することができます。（記録されていたデータはすべて消去されます。）

1 **フロッピーディスクドライブに書き込み可能状態（☞16ページ）にしたフロッピーディスクを入れます。**

2 **[スタート] をクリックし、「マイコンピュータ」をクリックします。**

3 **「3.5 インチ FD (A:)」アイコンを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。**

「フォーマット -3.5 インチ FD (A:)」画面が表示されます。

4 **必要に応じて、フォーマットオプションを設定します。**
新しいディスクをフォーマットするときは、「クイックフォーマット」のチェックマークを外してください。

5 **[開始] をクリックします。**
確認の画面が表示されます。

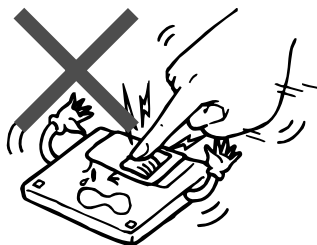
6 **[OK] をクリックします。**
フォーマットが始まります。

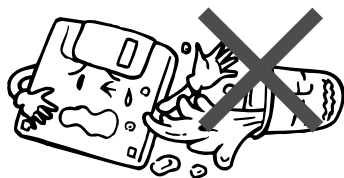
7 **「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。**

8 **[閉じる] をクリックして「フォーマット-3.5インチFD（A:)」画面を閉じます。**

9 **画面右上の ☒ をクリックして「マイコンピュータ」画面を閉じます。**

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクに記録されているデータを保護するため、次のような点にご注意ください。

シャッターを開けて直接シート(記録面)に触れないでください。

落としたり、上に重いものを載せたり、曲げたりして、衝撃を与えないでください。

液体をこぼさないでください。

磁気を発生させるもの(磁石、スピーカーなど)の近く、直射日光の当たるところや暖房器具の近く、ほこりの多いところなどでの使用・保管は避けてください。

通信

ネットワークに接続する（LAN）

このパソコンを自宅で2台目としてお使いになる場合など、パソコン同士でデータをやりとりするときは、ネットワークを利用すると便利です。
使用する環境に応じた方法で接続し、ネットワークの設定をしてください。

パソコンをネットワークに接続する

LAN ケーブルでハブを経由してネットワークに接続する

市販のLAN ケーブル（ストレートケーブル）を使ってパソコンのLAN ジャックとハブを接続します。

10BASE-T の LAN に接続する場合　：カテゴリ 3 以上のケーブル
100BASE-TX の LAN に接続する場合　：カテゴリ 5 以上のケーブル

1 **パソコンの電源を切ります。**

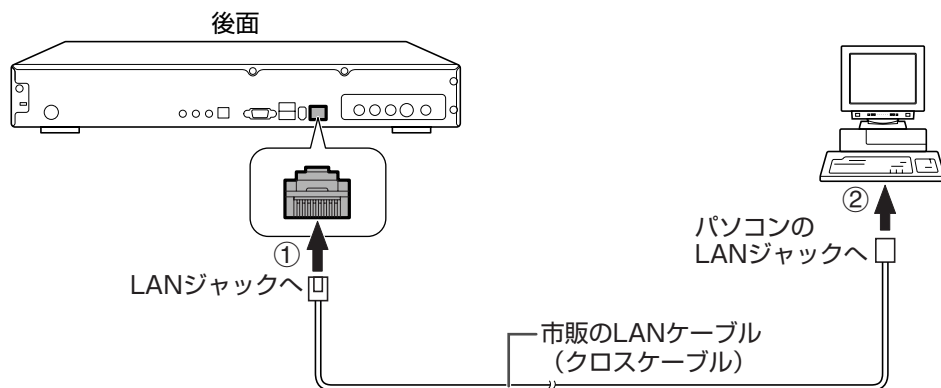
2 **パソコンをハブに接続します。**

3 **パソコンの電源を入れます。**

LAN ケーブルで 2 台のパソコンを直接接続する

市販の LAN ケーブル（クロスケーブル）を使って、このパソコンの LAN ジャックともう一台のパソコンの LAN ジャックを接続します。

1 **パソコンの電源を切ります。**
接続先のパソコンも電源を切ってください。

2 **このパソコンともう一台のパソコンを接続します。**

3 **両方のパソコンの電源を入れます。**

ワイヤレス LAN で接続する

ご購入時は、このパソコンにワイヤレスLANは内蔵されていません。市販のワイヤレスLANアダプターをご利用いただくことによりワイヤレスでネットワークに接続することができます。

- ワイヤレスLANアダプター（市販）の使い方や設定方法などについては、ワイヤレスLAN アダプターの説明書を参照してください。

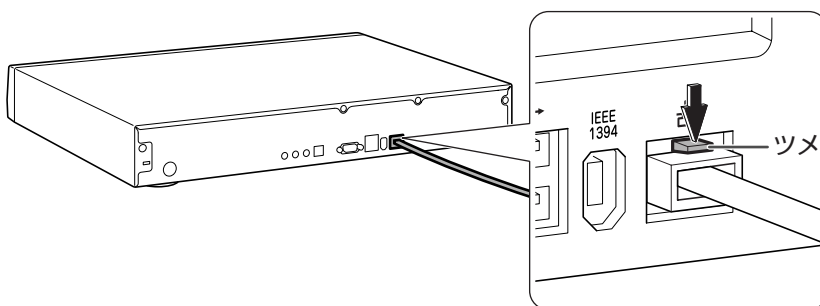
通信

LAN ケーブルを取り外す

ご注意

- LANケーブルをパソコンから取り外すときは、必ずLANケーブルのツメを押しながら取り外してください。無理に引き抜くとツメが折れるので注意してください。

1 パソコンの電源を切ります。

2 LAN ケーブルのコネクターのツメを下に押しながら、まっすぐに引き抜きます。

ネットワークを設定する

ネットワークの環境によっていろいろな設定方法があります。ここでは、次の場合を例に説明します。

- インターネットに接続していない2台のパソコンをLANケーブルで接続する場合
- 接続する先のパソコンのOSはWindows XP、Windows Me、Windows 98
- ネットワークの設定に「ネットワークセットアップウィザード」を使用

ネットワークを設定する前に

LANケーブルで2台のパソコンを直接接続する（☞22ページ）を参照してパソコン同士を接続し、それぞれ電源を入れておいてください。

このパソコンのネットワークを設定する

1 [スタート]をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

「ネットワークとインターネット接続」が見つからないときは、「コントロールパネル」欄の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックして表示させてください。
（コントロールパネルの表示について☞3ページ）

3 「ネットワークセットアップウィザード」をクリックします。

「ネットワークセットアップウィザード」画面が表示されます。

4 [次へ]をクリックします。

5 [次へ]をクリックします。

ご参考

「ネットワークハードウェアの接続が切断されていることが検出されました」と表示されたときは

- 「接続」欄に「ローカルエリア接続」が表示されているときは、[キャンセル]をクリックしてネットワークセットアップウィザードをいったん終了した後、接続先のパソコンの電源が入っているか、LANケーブルが接続されているか確認して、もう一度手順1からやり直してください。
- 「接続」欄に「ワイヤレスネットワーク接続」が表示されているときは、「接続されていないネットワークハードウェアを無視する」をクリックしてチェックマークを付け、[次へ]をクリックしてください。

6 「その他」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。

7 「インターネットに接続していないネットワークに属している」をクリックして選択し、［次へ］をクリックします。

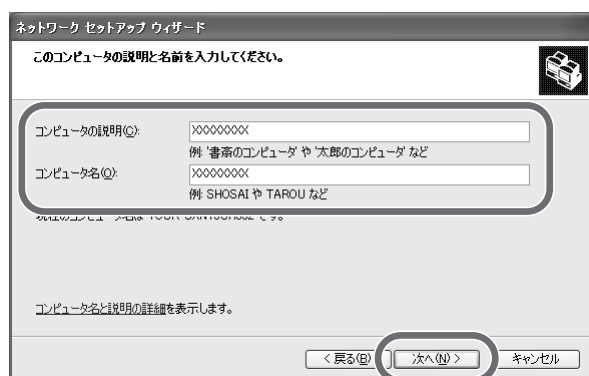
8 「ネットワークへの接続を選択する」をクリックし、［次へ］をクリックします。

9 「ローカルエリア接続」のみにチェックマークが付いている状態にします。

「ワイヤレスネットワーク接続」や「1394接続」が表示されているときはクリックしてチェックマークを外してください。

10 ［次へ］をクリックします。

11 「コンピュータの説明」欄にコンピュータの説明を、「コンピュータ名」欄にコンピュータの名前を入力し、［次へ］をクリックします。

「コンピュータ名」は、ネットワーク上でコンピュータを区別するための名前です。このパソコンと接続先のパソコンは、それぞれ違う名前を付けてください。

12 「ワークグループ名」欄に任意の名前を入力し、［次へ］をクリックします。

このパソコンと接続先のパソコンのワークグループ名は、同じ名前を付けてください。

13 「ファイルとプリンタの共有を有効にする」をクリックして選択し、［次へ］をクリックします。

14 ［次へ］をクリックします。

ネットワークの設定が始まります。

通信

通信

15 「ほかのコンピュータでウィザードを実行する必要はない（ウィザード終了）」をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。

16 [完了] をクリックします。
確認画面が表示されます。

17 [はい] をクリックします。
パソコンが再起動します。

接続先のパソコンのネットワークを設定する

接続先のパソコンが Windows XP の場合

接続先のパソコンもこのパソコンのネットワークを設定する（☞24 ページ）の作業をしてください。

接続先のパソコンが Windows Me または Windows 98 の場合

1 [スタート] をクリックし、「設定」－「コントロールパネル」をクリックし、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
「ネットワーク」画面が表示されます。
「ネットワーク」アイコンが見つからないときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックして表示させてください。

2 「現在のネットワークコンポーネント」欄に「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されているか確認します。
表示されている場合は、手順 4 に進んでください。

3 Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていない場合、以下の操作をして、「Microsoft ネットワーククライアント」を表示させせます。

① ［追加］をクリックします。
「ネットワークコンポーネントの選択」画面が表示されます。

② 「クライアント」をクリックして選択し、［追加］をクリックします。
「ネットワーククライアントの選択」画面が表示されます。

③ 「製造元」欄から「Microsoft」をクリックして選択し、「ネットワーククライアント」欄から「Microsoftネットワーククライアント」をクリックして選択します。

④ ［OK］をクリックします。
「現在のネットワークコンポーネント」欄に「Microsoftネットワーククライアント」が表示されます。

4 「優先的にログオンするネットワーク」欄の ▼ をクリックし、「Microsoft ネットワーククライアント」をクリックします。

5 ［ファイルとプリンタの共有］をクリックします。

「ファイルとプリンタの共有」画面が表示されます。

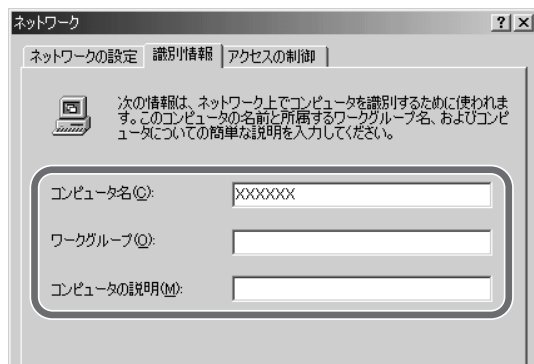
6 「ファイルを共有できるようにする」をクリックしてチェックマークを付け、［OK］をクリックします。

プリンターも共有したいときは、「プリンタを共有できるようにする」をクリックしてチェックマークを付けてください。

7 「識別情報」タブをクリックします。

通信

8 **「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」を入力します。**

「ワークグループ」は、このパソコンのネットワークを設定するの手順 12（☞25ページ）で入力したワークグループ名と同じ名前を入力してください。

9 **[OK] をクリックします。**

確認画面が表示されます。

10 **[はい] をクリックします。**

パソコンが再起動します。

コンピュータ名やワークグループ名を変更するには

1 **[スタート] をクリックし、「マイコンピュータ」をクリックします。**

「マイコンピュータ」画面が表示されます。

2 **「システムのタスク」欄の「システム情報を表示する」をクリックします。**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 **「コンピュータ名」タブをクリックし、[変更] をクリックします。**

「コンピュータ名の変更」画面が表示されます。

4 **「コンピュータ名」欄にコンピュータ名を、「ワークグループ」欄にワークグループ名をそれぞれ入力し、[OK] をクリックします。**

「コンピュータ名の変更」画面が表示されます。

5 **[OK] をクリックして「コンピュータ名の変更」画面を閉じます。**

確認画面が表示されます。「コンピュータ名」のみを変更した場合は、手順 7 へ進みます。

6 **［OK］をクリックします。**

7 **［OK］をクリックして「システムのプロパティ」画面を閉じます。**

確認画面が表示されます。

8 **［はい］をクリックします。**

パソコンが再起動します。

このパソコンから他のパソコンのデータを見えるようにする

パソコンのデータを共有設定すると、お互いのパソコンのファイルやフォルダを利用できます。作ったデータを他の人に見せたり、このパソコンで作った資料をノートパソコンにコピーして持ち運んだりできます。

フォルダを共有する

ここでは、例として「共有」フォルダを共有する方法について説明しますが、同じようにしてドライブも共有できます。

このパソコンおよび接続先のパソコンがWindows XPの場合

1 共有したいフォルダ（「共有」フォルダ）を右クリックし、「共有とセキュリティ」をクリックします。

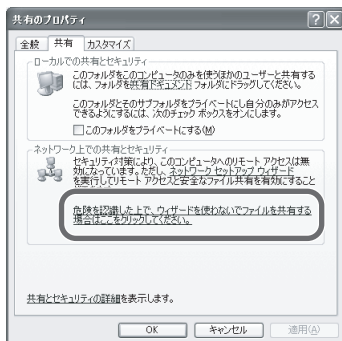
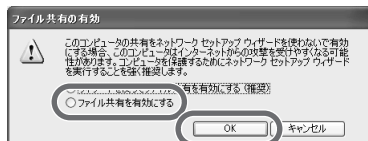
「XXXXXXX（フォルダ名）のプロパティ」画面が表示されます。

2 「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」をクリックしてチェックマークを付け、「共有名」を入力します。

ご参考

「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」が表示されないときは

- ネットワークセットアップウィザードを使用していないときや、Windows XPで初めてファイル共有するときは、次の画面が表示されます。以下の手順に従ってください。

① 「危険を認識した上で、ウィザードを使わないでファイルを共有する場合はここをクリックしてください。」をクリックします。

② 「ファイル共有を有効にする」をクリックして選択し、[OK]をクリックします。

③ 「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」をクリックしてチェックマークを付け、「共有名」を入力します。

3 ［OK］をクリックします。
共有されたフォルダのアイコンに が表示されます。

接続先のパソコンがWindows MeまたはWindows 98の場合

1 共有したいフォルダ（「私の共有」フォルダ）を右クリックし、「共有」をクリックします。
「私の共有のプロパティ」画面が表示されます。

2 「共有する」をクリックして選択し、「共有名」を入力します。

3 「アクセスの種類」欄でアクセス権の種類をクリックして選択し、必要に応じてパスワードを入力します。

4 ［OK］をクリックします。
パスワードを設定したときは、パスワードの確認画面が表示されますので、もう一度同じパスワードを入力し、［OK］をクリックしてください。
共有されたフォルダのアイコンに が表示されます。

共有したフォルダを利用する

ここでは、例として他のパソコン（コンピュータ名：Mebius）の「共有」フォルダ内のファイルを、このパソコンのデスクトップ上にコピーする方法を説明します。

1 ［スタート］をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」が見つからないときは、「コントロールパネル」欄の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックして表示させてください。（コントロールパネルの表示について☞3ページ）

3 「関連項目」欄の「マイネットワーク」をクリックします。
「マイネットワーク」画面が表示されます。

4 「ネットワークタスク」欄の「ワークグループのコンピュータを表示する」をクリックします。
同じワークグループに所属するパソコンのアイコンがすべて表示されます。

5 「Mebius」をダブルクリックします。
共有した「共有」フォルダが表示されます。

6 「共有」フォルダをダブルクリックします。

「共有」フォルダにパスワードが設定されているときは、パスワードを入力してください。
「共有」フォルダ内のファイルが表示されます。

7 このパソコンのデスクトップ上にファイルをドラッグ & ドロップします。

ファイルがコピーされます。

8 画面右上の ☒ をクリックして「共有-Mebius」画面を閉じます。

周辺機器

接続できる機器を確かめる

プリンターやマウスなど周辺機器を購入するときは、コネクターの形状が合っているか、自分のパソコンに対応しているのか、などを確かめましょう。

使える機器を確かめる

Windows XP に対応している周辺機器を選びましょう

周辺機器のカタログやパッケージで、Windows XP に対応しているか確認してください。

専用のデバイスドライバーをインストールするものがあります

デバイスドライバーは、周辺機器を認識するためのソフトウェアです。デバイスドライバーのフロッピーディスクやCD-ROMが付属している場合は、説明書に従ってパソコンにインストールしましょう。フロッピーディスクを使用する場合、別売の USB 接続 FD ドライブユニット（CE-FD05）が必要です。

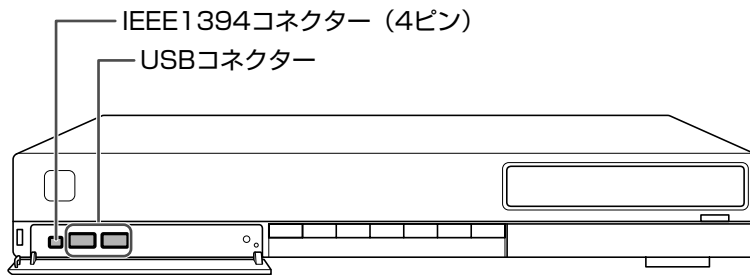
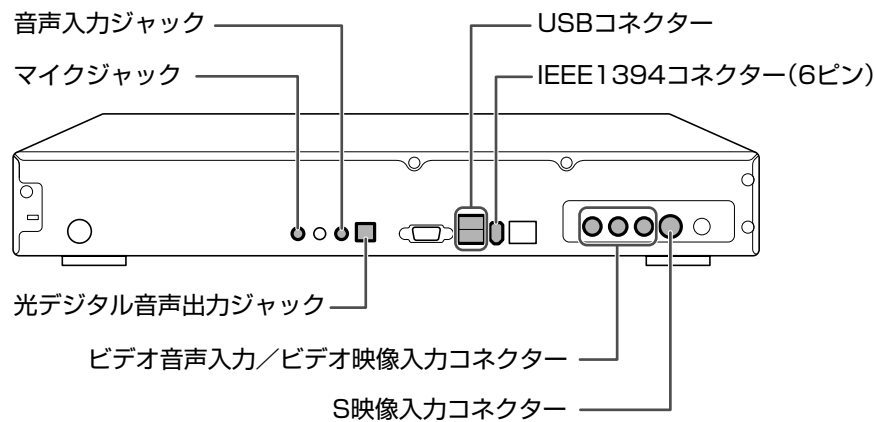
ご参考

- 接続可能な周辺機器については、お買いあげの販売店にお問い合わせいただくか、下記のメビウスのホームページを参照してください。
http://support.sharp.co.jp/mebius/

各コネクターに接続できる機器

パソコンには次のようなコネクターがあります。コネクターの名前や形状を確認してください。
モニターの各コネクターについては、**取扱説明書　活用編**（別冊）の**AV機器を接続する**を参照してください。

前面

後面

IEEE 1394

IEEE1394 コネクター（DV コネクター）

前面のコネクターは4ピン、後面のコネクターは6ピンです。IEEE1394 規格対応の機器を接続します。接続できる機器には、「IEEE1394 対応」などの表示があります。
IEEE1394 対応機器には、デジタルビデオカメラ、ハードディスクドライブ、CD/DVD ドライブなどがあります。

前面コネクターの形状

後面コネクターの形状

USB コネクター（A タイプ）

USB 規格対応の機器を接続します。接続できる機器には、「USB対応」などの表示があります。USB対応機器には、マウス、キーボード、プリンター、ハードディスクドライブ、スピーカーなどがあります。

コネクターの形状

S 映像入力コネクター［StationTV（付属ソフト）専用］

S映像出力端子のあるビデオカメラやビデオデッキなどを接続します。

コネクターの形状

ビデオ音声入力／ビデオ映像入力コネクター［StationTV（付属ソフト）専用］

アナログ音声／映像出力端子のあるビデオカメラやビデオデッキなどを接続します。

コネクターの形状

音声入力ジャック

ライン出力端子（LINE OUT）のあるオーディオ機器を接続します。

ジャックの形状

マイクジャック

外部マイクを接続します。

ジャックの形状

デジタル音声出力

光デジタル音声出力ジャック

光デジタル音声入力端子のあるＡＶ アンプ、ホームシアターシステム、MD レコーダーなどを接続します。

ジャックの形状

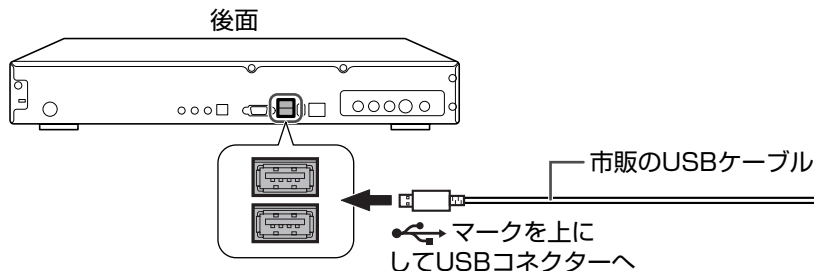
周辺機器

USB 機器を使う

USB 機器を接続するには、次の準備が必要です。
作業内容や手順などは、USB 機器の説明書もあわせて参照してください。

- Windows XP に対応している USB 機器を用意する。
- パソコンに USB 機器を接続する。
- デバイスドライバーが必要な場合、デバイスドライバーをパソコンにインストールする。

USB 機器を接続する

USB機器に付属または市販のUSBケーブルでUSB機器とパソコンを接続します。USB コネクターはパソコンの前面と後面に 2 つずつあります。いずれのコネクターに接続してもかまいません。USB 機器をパソコンに接続するときは、USB ケーブルのマークを上向きにしてください。

ご参考

- パソコンの電源を入れた状態で、USB 機器を接続することができます。
- 接続した USB 機器によっては、接続した後に対応するデバイスドライバーが自動的にインストールされます。インストールされない場合は、画面が表示されますので、画面の指示に従ってデバイスドライバーをインストールしてください。

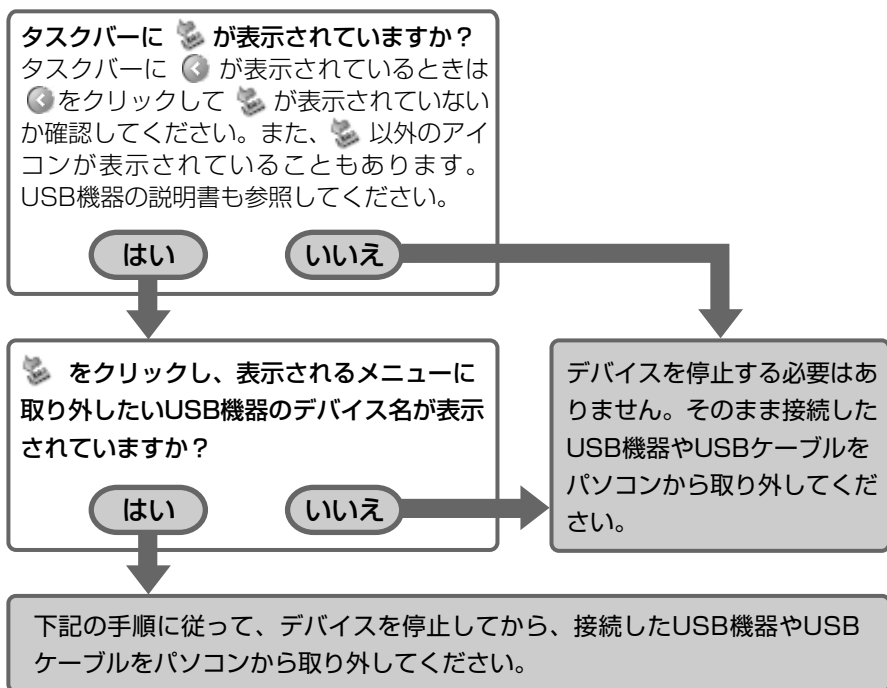
USB2.0 について

このパソコンは、USB1.1 および USB2.0 に対応しています。USB2.0 は、USB1.1よりも速いスピードでデータを転送することができます。USB2.0の転送速度を利用するには、USB2.0に対応している周辺機器およびUSBケーブルを接続してください。ただし、USB1.1 規格のハブを経由して USB2.0 の周辺機器を接続した場合は、USB1.1 の転送速度に制限されます。

USB 機器を取り外す

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブなど、データを格納する周辺機器（記憶装置）は、取り外す前にデバイスを停止する必要があります。接続しているUSB機器は、デバイスを停止する必要があるかどうか、取り外す前に必ず確認してください。

ご参考

- 取り外し手順は接続する周辺機器により異なる場合があります。周辺機器の説明書もあわせて参照してください。

1 **タスクバーの をクリックします。**

2 **表示されるメニューから、取り外したいUSB機器のデバイス名をクリックします。**

次の画面が表示されます。

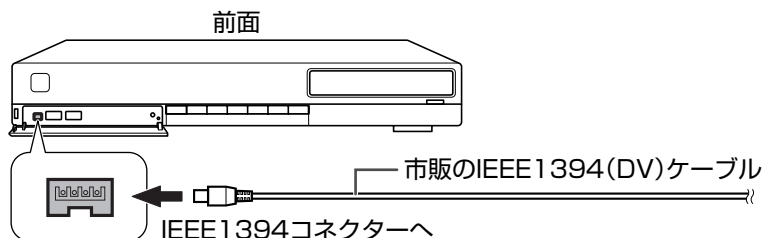
3 **パソコンから USB 機器や USB ケーブルを取り外します。**

IEEE1394 機器を使う

IEEE1394 機器を接続するには、次の準備が必要です。
作業内容や手順などは、IEEE1394 機器の説明書もあわせて参照してください。

- Windows XP に対応している IEEE1394 機器を用意する。
- パソコンに IEEE1394 機器を接続する。
- デバイスドライバーが必要な場合、デバイスドライバーをパソコンにインストールする。

IEEE1394 機器を接続する

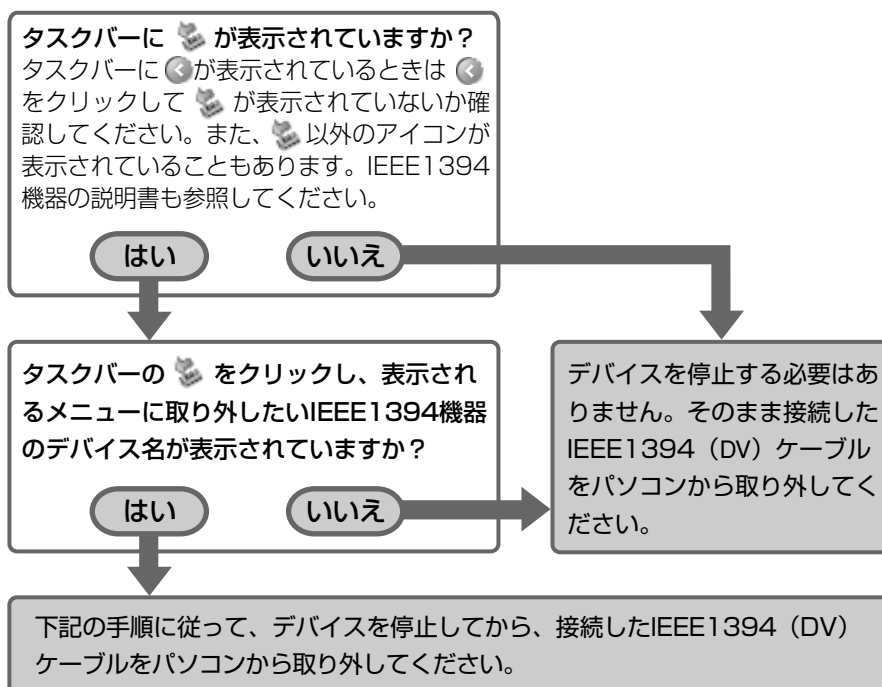
このパソコンには、2 種類の IEEE1394 コネクターがあります。
前面：4 ピン
後面：6 ピン
接続する IEEE1394 機器に応じて使い分けてください。
IEEE1394 機器に付属または市販の IEEE1394（DV）ケーブル（4 ピンまたは 6 ピン用）でパソコンと接続します。

ご参考

- パソコンの電源を入れた状態で、IEEE1394 機器を接続することができます。
- 接続したIEEE1394機器によっては、接続した後に対応するデバイスドライバーが自動的にインストールされます。インストールされない場合は、画面が表示されますので、画面の指示に従ってデバイスドライバーをインストールしてください。
- スタンバイまたは休止状態から復帰した後、接続しているIEEE1394機器が認識されない場合があります。この場合は、いったんIEEE1394 ケーブルを外して、再度接続してください。

IEEE1394 機器を取り外す

ハードディスクドライブなど、データを格納する周辺機器(記憶装置)は、取り外す前にデバイスを停止する必要があります。接続している IEEE1394 機器は、デバイスを停止する必要があるかどうか、取り外す前に必ず確認してください。

ご参考

- 取り外し手順は接続する周辺機器により異なる場合があります。周辺機器の説明書もあわせて参照してください。

1 タスクバーの をクリックします。

2 表示されるメニューから、取り外したいIEEE1394機器のデバイス名をクリックします。

次の画面が表示されます。

3 パソコンから IEEE1394 機器や IEEE1394（DV）ケーブルを取り外します。

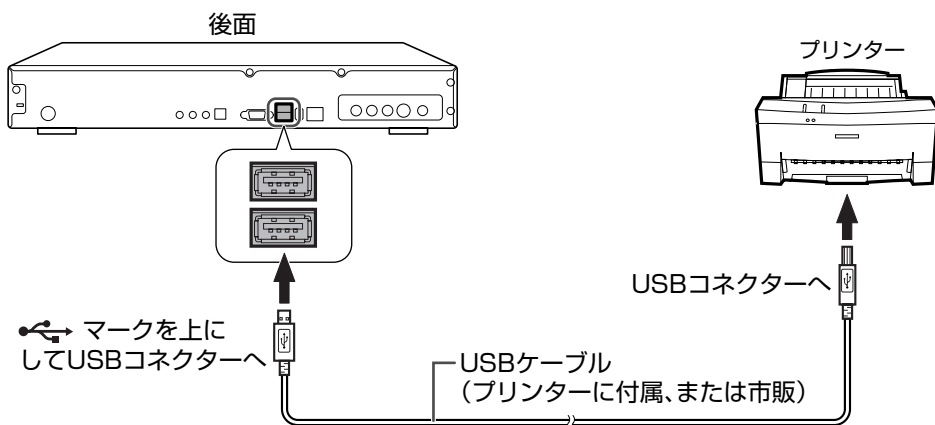
周辺機器

プリンターで印刷する

プリンターを接続して印刷するには、次の準備が必要です。
作業内容や手順などは、プリンターの説明書もあわせて参照してください。

- Windows XP に対応しているプリンター（USB 接続可能なもの）を用意する。
- パソコンにプリンターを接続する。
- プリンタードライバーをパソコンにインストールする。

プリンターを接続する

パソコンの電源を入れたまま接続できます。
USB コネクターはパソコンの前面と後面に 2 つずつあります。いずれのコネクターに接続してもかまいません。

プリンタードライバーをインストールする

プリンターを使用するためには、プリンタードライバーのインストールが必要です。プリンターの説明書を参照して、プリンタードライバーをインストールしてください。プリンターに付属のフロッピーディスクやCD-ROMを使うこともあります。フロッピーディスクを使用する場合、別売のUSB 接続FD ドライブユニット（CE-FD05）が必要です。

キヤノン製およびエプソン製プリンターの場合

このパソコンには、次のプリンタードライバーがあらかじめ保存されています。はじめて接続したときに、ドライバーが自動的にインストールされます。プリンターに付属のプリンタードライバーをインストールする必要はありません。

キヤノン製プリンター

PIXUS iP8600、PIXUS iP8100、PIXUS iP7100、PIXUS iP4100、PIXUS iP3100、PIXUS iP2000、PIXUS 80i
はじめて接続すると「使用許諾契約書」が表示されますので、［はい］をクリックしてください。

周辺機器

エプソン製プリンター

PX-G920、PM-G820、PM-A900、PM-A870、PM-A700、PX-A550、PM-D770、PM-G720、PX-V500

ご参考

- 印刷の設定などは、プリンターの説明書を参照してください。
- プリンターに関する質問などは、各メーカーにお問い合わせください。

万一に備えて

データ実行防止（DEP）機能について

このパソコンは、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能により、メモリーのデータ領域を悪用した一部の不正プログラムの実行を阻止し、パソコンをウイルス感染の被害から保護することができます。

データ実行防止（DEP）機能とは

アプリケーションソフトが使用しているメモリーのデータ領域を実行不可能領域にすることができる機能です。メモリーのデータ領域に悪意のあるコードを挿入して、それを実行しようとするウイルスやワームを動作させなくすることができます。

ご参考

- このパソコンのCPUはデータ実行防止（ハードウェアDEP）に対応していませんが、Windowsのデータ実行防止機能（ソフトウェアDEP）により、ある種類の悪意のあるコードによる攻撃を阻止することができます。
- DEPの設定およびセキュリティセンターの設定を変更するには、コンピュータの管理者でログオンする必要があります。
- このパソコンがネットワークに接続されている場合は、設定を変更できない場合があります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

DEPの設定を変更する

ご購入時は、WindowsのプログラムやサービスについてのみDEPが有効になっています。すべてのプログラムにおいてDEPを有効に設定するには、次の手順にしたがってください。

1 ［スタート］をクリックし、「マイコンピュータ」をクリックします。

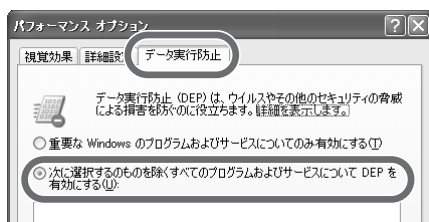
「マイコンピュータ」画面が表示されます。

2 「システムのタスク」欄の「システム情報を表示する」をクリックします。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」欄の［設定］をクリックします。

「パフォーマンスオプション」画面が表示されます。

4 **「データ実行防止」タブをクリックし、「次に選択するものを除くすべてのプログラムおよびサービスについてDEPを有効にする」をクリックして選択します。**

5 **［OK］をクリックします。**

確認画面が表示されます。

6 **［OK］をクリックします。**

7 **「システムのプロパティ」画面で［OK］をクリックします。**

8 **画面右上の ☒ をクリックして「マイコンピュータ」画面を閉じます。**

9 **パソコンを再起動します。**

DEPによりプログラムを実行できないときは

このパソコンではDEPが常に有効に働いているため、プログラムを実行しようとするときに以下のメッセージが表示されることがあります。

上記の画面が表示されたときは、［メッセージを閉じる］をクリックして画面を閉じ、以下の手順にしたがって、**このパソコンおよび実行できなかったプログラムが安全かどうか確認してください。**

1 **セキュリティセンターで「ファイアウォール」、「自動更新」、「ウイルス対策」がすべて「有効」になっているか確認します。**

有効になっていない場合は、すべて有効に設定してください。
セキュリティセンターについては、**取扱説明書　活用編（別冊）のコンピュータウイルスを予防する・駆除する - セキュリティ対策をしましょう**を参照してください。

2 ウイルスチェックを実行します。

ウイルスが検出された場合：
ご使用のウイルス対策ソフトの削除手順にしたがってください。
ウイルスが検出されなかった場合：
ウイルスが検出されず、上記のセキュリティセンターの設定もすべて有効に設定されている場合は、プログラムの開発元にお問い合わせいただき、プログラムの更新が可能かどうか確認してください。

特定のプログラムだけ DEP を無効にする

DEP により実行できなかったプログラムが安全であることが確認され、そのプログラムの更新バージョンを開発元より入手できない場合は、そのプログラムに対して DEP を無効に設定することができます。ただし、セキュリティが脆弱になる可能性がありますので、更新プログラム入手後は、DEPを有効にすることをお勧めします。

1 「DEP の設定を変更する」（☞44 ページ）の手順 1 から 4 までの作業をします。

2 「次に選択するものを除くすべてのプログラムおよびサービスについて DEP を有効にする」の一覧で、DEP を無効にしたいプログラムをクリックしてチェックマークを付けます。

一覧にプログラム名が表示されていないときは、［追加］をクリックして無効にしたいプログラムのファイルを選択します。

3 ［OK］をクリックします。

再起動の確認画面が表示されたときは、［OK］をクリックします。

4 「システムのプロパティ」画面で［OK］をクリックします。

5 画面右上の ☒ をクリックして「マイコンピュータ」画面を閉じます。

6 手順3でパソコンの再起動のメッセージが表示されたときは、パソコンを再起動します。

パスワードを設定して使用できる人を制限する

パソコンの不正使用やデータの盗難を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定しておくと、セットアップユーティリティ起動時にパスワード入力画面が表示され、パスワードを知らない人の使用を防ぐことができます。

ここでは、セットアップユーティリティで設定するパスワードについて説明します。このパスワードを設定すると、セットアップユーティリティの起動と変更およびパソコンの起動を制限することができます。

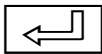
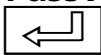
ご参考

- セットアップユーティリティで設定するパスワードとは別に、Windowsのユーザーアカウント毎にパスワードを設定することもできます。詳しくは、**取扱説明書　活用編**（別冊）の**ユーザーアカウントにパスワードを設定する**を参照してください。

パスワードを登録する

ここでは一例として、スーパーバイザパスワードを入力し、セットアップユーティリティ起動時にパスワード入力画面が表示されるように設定します。

ご注意

- 必要のないときは、パスワードを設定しないでください。パスワードを忘れると、セットアップユーティリティの起動／変更や、パソコンの起動ができなくなります。

1 **パソコンの電源を入れます。**

2 **画面の左下に「<F2> to enter Setup」と表示されたらすぐに F2 キーを押します。**
セットアップユーティリティのメインメニュー画面が表示されます。

3 **← → ↓ ↑ でメインメニュー右側の「Set Supervisor Password」を選び、↵ キーを押します。**
パスワード入力画面が表示されます。

4 **「Enter Password」欄にパスワードを入力し、↵ キーを押します。**
パスワードは、8文字までの半角英数字で設定してください。

5 **「Confirm Password」欄に確認のために同じパスワードを再度入力し、↵ キーを押します。**

6 **F10 キーを押します。**

7 **「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ? Y」と表示されたら、[↵] キーを押します。**

設定内容を保存してセットアップユーティリティが終了し、Windowsが起動します。

ご参考

- パソコン起動時にもパスワード入力画面が表示されるように設定するときは、手順5の後、「Advanced BIOS Features」メニューの「Password Check」で「System」を選んでください。（セットアップユーティリティ ☞ 86 ページ）

パスワードを登録したパソコンを起動する

パスワードを登録したパソコンを起動するには、表示されるパスワード入力画面（下記）にパスワードを入力します。入力しないと、次の操作に進むことができません。

```
Enter Password : ........
```

パスワードの入力をまちがえると、「Invalid Password! Press Any Key to Continue.」画面が表示されますので、[↵] キーを押してパスワードを再入力してください。

パスワードを変更する

1 **パソコンの電源を入れます。**

2 **画面の左下に「<F2> to enter Setup」と表示されたらすぐに [F2] キーを押します。**

3 **パスワードを入力し、[↵] キーを押します。**

セットアップユーティリティのメインメニュー画面が表示されます。

4 **[←] [→] [↓] [↑] でメインメニュー右側の「Set Supervisor Password」を選び、[↵] キーを押します。**

パスワード入力画面が表示されます。

5 **「Enter Password」欄に新しいパスワードを8文字までの半角英数字で入力し、[↵] キーを押します。**

万一に備えて

6 **「Confirm Password」欄に、確認のためもう一度同じパスワードを入力し、⏎ キーを押します。**

7 **F10 キーを押します。**

8 **「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ? Y」と表示されたら、⏎ キーを押します。**
設定内容を保存してセットアップユーティリティが終了し、Windowsが起動します。

パスワードを削除する

1 **パソコンの電源を入れます。**

2 **画面の左下に「<F2> to enter Setup」と表示されたらすぐに F2 キーを押します。**

3 **パスワードを入力し、⏎ キーを押します。**
セットアップユーティリティのメインメニュー画面が表示されます。

4 **← → ↓ ↑ でメインメニュー右側の「Set Supervisor Password」を選び、⏎ キーを押します。**
パスワード入力画面が表示されます。

5 **「Enter Password」欄に何も入力せずに、⏎ キーを押します。**
「PASSWORD DISABLED !!!」と表示されたら、何かキーを押します。

6 **F10 キーを押します。**

7 **「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ? Y」と表示されたら、⏎ キーを押します。**
設定内容を保存してセットアップユーティリティが終了し、Windowsが起動します。

重要なデータを見られないようにする

他人に見られては困るデータをメビウスプライバシーBOX（付属ソフト）に保存すると、データが暗号化され、本人以外はデータを見ることができなくなります。

 ご参考

- メビウスプライバシーBOXを使用するときは、「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンしてください。
- メビウスプライバシーBOXの詳しい使い方は、ヘルプを参照してください。ヘルプを表示するには、[スタート] をクリックし、「すべてのプログラム」-「SHARP メビウスプライバシーBOX」-「メビウスプライバシーBOXのヘルプ」をクリックします。

データを暗号化する

他の人に見られないようにデータをメビウスプライバシーBOXに入れて暗号化します。

ご注意

- 設定したパスワードは忘れないようにしてください。メビウスプライバシーBOXからデータを取り出せなくなります。
- メビウスプライバシーBOXを施錠した状態では、メビウスプライバシーBOX内のデータがウイルスに感染していても、ウイルス対策ソフトでウイルスを発見･駆除することができません。ウイルス検査をするときは、メビウスプライバシーBOXを開錠した状態で行ってください。
- パソコンの再インストールをするときは、メビウスプライバシーBOX内にあるデータもバックアップしてください。パソコンの再インストールの際には、メビウスプライバシーBOX内のデータも削除されます。

1 **[スタート] をクリックし、「すべてのプログラム」ー「SHARP メビウスプライバシーBOX」ー「メビウスプライバシーBOX」をクリックします。**

 ご参考

はじめて メビウスプライバシーBOXを起動したときは

- 「メビウスプライバシーBOX使用許諾契約書」が表示されます。内容をよくお読みになり、同意される場合は［同意する］をクリックします。
- パスワードの設定画面が表示されます。メビウスプライバシーBOXのパスワードを設定してください。

① パスワードの設定画面のパスワード欄に8～31文字の半角英数記号でパスワードを入力します。

② 確認のため、もう一度同じパスワードを確認用入力欄に入力します。

③ ［OK］をクリックします。
パスワードが設定され、メビウスプライバシーBOXが開きます。手順**3**に進んでください。

2 パスワード欄にパスワードを入力し、（開錠）をクリックします。

3 Windows 上のファイルやフォルダを右クリックし、表示されたメニューから「コピー」をクリックします。

4 メビウスプライバシー BOX 内にマウスポインターを移動して、右クリックし、表示されたメニューから「貼り付け」をクリックします。

プライバシー BOX に入ったデータは暗号化されます。

 ご参考

- コピー元のデータは暗号化されずに残っています。必要に応じて削除してください。
- メビウスプライバシーBOX内のファイルは通常の操作で編集・保存することができます。

5 メビウスプライバシーBOX左上の（施錠）をクリックします。

確認画面が表示されたときは内容を確認し、［OK］をクリックします。

 ご注意

- 暗号化されたデータは、施錠することで、第三者からの閲覧を防止することができます。メビウスプライバシーBOXにデータを入れたあとは、必ず施錠してください。
- 施錠前には、必ずメビウスプライバシーBOX内のファイルを閉じてください。ファイルが開いているときに施錠すると、ファイルの内容が失われることがあります。

6 画面右上の をクリックして、メビウスプライバシーBOXを閉じます。

データの暗号化を解除する

データをメビウスプライバシー BOX から出して暗号化を解除します。

1 **[スタート] をクリックし、「すべてのプログラム」ー「SHARP メビウスプライバシーBOX」ー「メビウスプライバシーBOX」をクリックします。**

2 **パスワード欄にパスワードを入力し、 （ 開錠 ）をクリックします。**

メビウスプライバシー BOX が開きます。

3 **メビウスプライバシーBOX内のデータを右クリックし、表示されたメニューから「コピー」をクリックします。**

4 **データを置きたい場所にマウスポインターを移動して、右クリックし、表示されたメニューから「貼り付け」をクリックします。**

メビウスプライバシーBOXから取り出されたデータは、暗号化が解除されます。

ご参考

- メビウスプライバシーBOXには元のデータが残っています。必要に応じて削除してください。

5 **メビウスプライバシーBOX左上の (施錠)をクリックします。**

確認画面が表示されたときは内容を確認し、[OK] をクリックします。

6 **画面右上の をクリックして、メビウスプライバシーBOXを閉じます。**

万一に備えて

困ったときは

故障かな？と思ったら

“故障かな?” と思っても、調べてみると故障ではないこともあります。
トラブルによっては、パソコンの故障ではなく、Windowsやアプリケーションソフト、または周辺機器に関するトラブルの場合もあります。修理をご依頼になる前に、ここに記載されている内容および下記の説明書やヘルプを参照して問題の解決方法がないか、もう一度よくお確かめください。

- [スタート]をクリックして、「ヘルプとサポート」をクリックして表示されるヘルプ画面
- お使いのアプリケーションソフトの説明書、ヘルプ
- お使いの周辺機器の説明書
- メビウス電子マニュアルの「よくある質問集」

ご参考

メビウス電子マニュアルを起動するには

- デスクトップ上の をクリックします。

それでも問題が解決しないときは

一度パソコンのハードディスクを初期化して、改めてご購入時の状態に戻すことをお勧めします。詳しくは、**ご購入時の状態に戻す（再インストール）**（☞59ページ）を参照してください。

困ったときは

Windows起動時のトラブル

? フロッピーディスクから起動できない

- フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。
- フロッピーディスクドライブにセットしたフロッピーディスクが起動用かどうか確認してください。
- **セットアップユーティリティ**（☞86ページ）のAdvanced BIOS Featuresメニューで「Boot Sequence」の「First Boot Device」欄を「USB-FDD」に切り換えているか確認してください。

「DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER」と表示される

- 再インストールに失敗したときは、このメッセージが表示されることがあります。その場合は、ハードディスク全体をリカバリCDから再インストールする（☞76ページ）の手順に従って再インストールし直してください。

フロッピーディスクに関するトラブル

2DD（720KB）および2HD-1.2MBタイプのフロッピーディスクが使えない

フロッピーディスクを使用する場合は、次の制限があります。

- 2DDおよび2HD(1.2MB)タイプのディスクでは起動できません。
- 2DDおよび2HD(1.2MB)タイプのフロッピーディスクはフォーマットできません。
- DISKCOPYなどのコマンドは実行できません。
- データを保存するときや2HD(1.44MB)のディスクを使用するコンピュータとデータをやりとりするときは使わないでください。
- 特殊なフォーマットタイプ(2HD(1.21MB)タイプなど)のディスクに対しては読み書きできません。
- マカフィー・ウイルススキャン（付属ソフト）のVirusScanが有効になっていると、2HD-1.2MBタイプのフロッピーディスクを使用できない場合があります。次の手順に従って、パソコンを再起動した後、VirusScanを無効にしてください。

  ① ドライブからフロッピーディスクを取り出し、パソコンを再起動します。

  ② タスクバーの M を右クリックします。

  ③ 「VirusScan」をクリックし、「無効にする」をクリックします。
  確認画面が表示されます。

  ④ ［はい］をクリックします。

  ただし、この場合、ウイルスからコンピュータを保護することはできません。フロッピーディスクに保存されているデータは、必ずいったんハードディスクに保存した後、VirusScanを有効にして（上記手順③で「有効にする」をクリック）、ウイルスに感染していないことを確認してから開く（実行する）ようにしてください。

困ったときは

通信に関するトラブル

? 内蔵 LAN でハブに接続してもうまく使えない

- ネットワークの設定がネットワーク環境に合っていない可能性があります。以下の手順でネットワークの設定を確かめてください。

① [スタート] をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」画面が表示されます。

② 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。
「パフォーマンスとメンテナンス」が見つからないときは、「コントロールパネル」欄の「カテゴリ表示に切り替える」をクリックして表示させてください。
（**コントロールパネルの表示について** ☞3 ページ）

③ 「コンピュータの基本的な情報を表示する」をクリックします。

④ 「ハードウェア」タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。

⑤ 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、「Realtek RTL8139/810x Family Fast Ethernet NIC」をダブルクリックします。

⑥ 「詳細設定」タブをクリックし、「プロパティ」欄の「Connection Type」を選択します。

⑦ 「値」を使用する環境に合った値に変更します。

⑧ [OK] をクリックして「デバイスマネージャ」画面に戻ります。

⑨ 画面右上の ☒ をクリックして「デバイスマネージャ」画面を閉じます。

⑩ 画面右上の ☒ をクリックして「システムのプロパティ」画面を閉じます。

⑪ 画面右上の ☒ をクリックして「パフォーマンスとメンテナンス」画面を閉じます。

リモコンに関するトラブル

? リモコンで操作できない

- リモコンの乾電池の向きを確認してください。（**取扱説明書　接続と準備**（☞ 別冊）の**リモコンの準備**）
- リモコンの乾電池が消耗していないか確認してください。
- リモコンをモニターまたはパソコンの受光部に向けて操作してください。また、受光部と離れすぎていることもありますので、近づいて操作してみてください。（**取扱説明書　接続と準備**（☞ 別冊）の**リモコンの準備**）

困ったときは

その他のトラブル

? タスクバーに「コンピュータが危険にさらされている可能性があります。（ウイルス対策ソフトウェア）が最新でない可能性があります」というメッセージが表示された

- このパソコンにはウイルス対策ソフトとして、マカフィー・ウイルススキャンが搭載されています。ウイルスの侵入を自動的に監視して感染を予防しますが、パソコンを新しいウイルスから保護するには常に最新のウイルス定義ファイルにアップデートする必要があります。
  取扱説明書　活用編（別冊）のコンピュータウイルスを予防する・駆除するを参照し、ウイルス定義ファイルをアップデートしてください。

? タスクバーに「コンピュータが危険にさらされている可能性があります。自動更新が無効になっています」というメッセージが表示された

- 自動更新を「有効」に設定することで、メッセージは表示されなくなります。
  ① ［スタート］をクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。
  「コントロールパネル」画面が表示されます。
  ② 「セキュリティセンター」をクリックします。
  ③ 「自動更新」欄の［自動更新を有効にする］をクリックします。
  自動更新が「有効」になります。
  ④ 画面右上の ☒ をクリックして画面を順に閉じます。

? 電源が切れない

- 電源ボタンを4秒以上押し続けて強制的に電源を切ります。電源ランプが消えたことを確認し、その後10秒以上間隔をおいて再度電源を入れてください。
- 上記の操作をしてもだめなときは、ハードディスクランプが点灯していないことを確認した上で、ACアダプターを抜いて電源を切り、その後10秒以上間隔をおいてACアダプターを接続し、電源を入れてください。

? 音楽ファイル再生時に音飛びが発生する

- SDメモリーカードなどのメモリーカード内にあるMP3などの音楽ファイルを再生すると、音飛びが発生することがあります。音楽ファイルをハードディスクにコピーしてから再生してください。

? 音が聞こえない

- PC オーディオケーブルが正しく接続されているか確認してください。（**取扱説明書　接続と準備**（別冊）の**モニターとパソコンを接続する**）
- 消音状態のままにしていないか確認してください。
- リモコンの［音量］（ ）を押してみて音量を最小にしていないか確認してください。
- コントロールパネルの「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」-「サウンドとオーディオデバイス」をクリックし、「ミュート」にチェックがついていないことと、音量のツマミが「低」に設定されていないことを確認してください。

? パスワードを忘れてメビウスプライバシーBOXが使用できない

- メビウスプライバシー BOX は、以下の手順で再度使用できるようになります。ただし、メビウスプライバシー BOX 内のデータはすべて削除されます。

① メビウスプライバシー BOX を起動しているときは、 をクリックして閉じます。

② ［スタート］をクリックし、「すべてのプログラム」-「SHARP メビウスプライバシー BOX」-「メビウスプライバシー BOX のヘルプ」をクリックします。

③「困ったときは」をダブルクリックし、「パスワードを忘れて、開錠できなくなったときは?」をクリックします。

④ ［このボタン］をクリックします。

⑤ 画面の指示に従って［はい］を順にクリックします。

? デスクトップにある Mebius ユーザー登録はこちらから や メビウス電子マニュアル を消したい

- Mebius ユーザー登録はこちらから や メビウス電子マニュアル を右クリックして、「削除」をクリックします。

ご購入時の状態に戻す（再インストール）

ここでは、パソコンをご購入時の状態に戻す（再インストールする）方法について説明します。

再インストールに関するご注意

ハードディスク内の再インストール用データについて

このパソコンのハードディスクの中には、再インストールに必要な非常に重要なデータがあらかじめ保存されています。再インストール用のデータを変更したり、削除したりすると、再インストールができなくなりますので、下記の注意事項を守るようにしてください。
また、**再インストール用のデータは、万一に備えてCD-Rにコピーしておくことをおすすめします。**
（このパソコンには、再インストール用のリカバリCD-ROMは付属していません。）

次のことを必ずお守りください

- 市販のハードディスクパーティション変更ツールを使って、ハードディスクのパーティション設定を変更しないでください。再インストール用のデータが消えて、ハードディスクドライブ（HDD）からの再インストールができなくなります。
- 市販のデータリカバリソフトをインストールしている場合、再インストールする前に、必ず削除（アンインストール）してください。データリカバリソフトの中には、MBR（マスターブートレコード：ハードディスクの先頭にあり、パーティション情報などが書かれています）を書き換えるソフトウェアがあります。そのため、このようなデータリカバリソフトがインストールされている状態では、再インストールができなかったり、リカバリCDが作成できなかったりします。また再インストール時にCドライブのデータが消えたりします。

ご注意

- 再インストールすると、ハードディスク内のCドライブの内容はすべて消去されてしまいます。再インストールが必要かどうかよく確認してから始めてください。

ご参考

- **故障かな?と思ったら**（☞ 54ページ）および**メビウス電子マニュアル**の「よくある質問集」に問題が起こったときの解決方法が書かれています。再インストールをする前に、当てはまる項目がないか調べてみてください。
メビウス電子マニュアルを起動するには、デスクトップ上の［電子マニュアル］をクリックします。
- 再インストール後はウイルス対策ソフトの更新をしてください。
再インストール完了後のパソコンのシステムは、ご購入時の状態に戻っています。ウイルス対策ソフトのウイルス定義ファイルをアップデートしてください。詳しくは**取扱説明書　活用編**（別冊）の**コンピュータウイルスを予防する・駆除する**を参照してください。

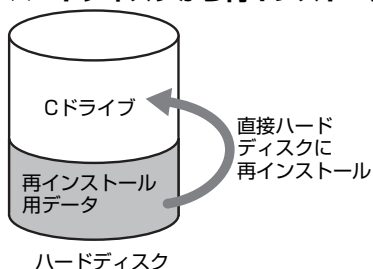
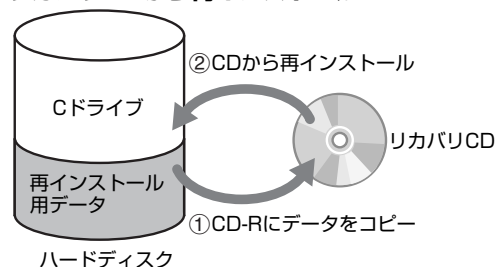
ご参考

パソコンの廃棄・譲渡時はデータを消去してください

- 再インストールを行い、ハードディスク内のデータを初期化しても市販のデータ回復ソフトを利用すればデータを復元できる場合があります。このパソコンを廃棄や譲渡するときは、重要なデータが流出するといったトラブルを回避するため、**パソコンの廃棄・譲渡時にデータを消去する**（☞97 ページ）を参照してハードディスクの全データを消去してください。

再インストールの種類

再インストールには、以下の 2 つの方法があります。

ハードディスクから再インストール

リカバリCDから再インストール

ハードディスクドライブから再インストールする

あらかじめハードディスクドライブに保存されている再インストール用のデータを使って直接ハードディスクに再インストールする方法です。
リカバリCDより短時間で再インストールを完了することができますが、万一再インストール用のデータが壊れたり削除されたりしてしまうと、再インストールができなくなってしまいます。

リカバリ CD から再インストールする

ハードディスクに保存されている再インストール用のデータを、いったん CD-R にコピーし、CD からハードディスクに再インストールする方法です。
お客様ご自身でCD-Rを用意し、リカバリCDの作成作業をしていただく必要がありますが、万一再インストール用のデータが壊れたり削除されたりした場合でも、リカバリ CD から再インストールすることができます。

再インストールの準備をする

再インストールの手順を確認する

ハードディスクから再インストールする場合

ハードディスクから再インストールするときは、以下の手順でします。

Step1　セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す

⇩

Step2　ハードディスクから再インストール用のデータを再インストールする

⇩

Step3　Windows をセットアップする

これでハードディスクの内容は、ご購入時の状態に戻ります。

リカバリ CD から再インストールする場合

リカバリ CD から再インストールするときは、以下の手順でします。

リカバリ CD を作成する

Step1　セットアップユーティリティの設定を変更する

Step2　リカバリ CD の内容を再インストールする

Step3　Windows をセットアップする

Step4　セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す

⇩

これでハードディスクの内容は、ご購入時の状態に戻ります。

ご参考

- 一度リカバリ CD を作成しておくと、2 回目以降は作成する必要はありません。

大切なデータをバックアップする

再インストールすると、ご購入後にハードディスクに保存されたファイルや、インストールされたアプリケーションソフトなども消えてしまいます。大切なデータやインターネットなどの設定は、再インストールをする前に必ずバックアップしておいてください。（☞**取扱説明書　活用編**（別冊）の**大切なデータをバックアップする**）

ご注意

メビウスプライバシーBOX内のデータについて

- メビウスプライバシーBOX（☞ 50ページ）をお使いのときは、メビウスプライバシーBOX内にあるデータもバックアップしてください。
  再インストールの際には、メビウスプライバシーBOX内のデータも削除されます。

必要なものを準備する

説明書

- 取扱説明書　接続と準備

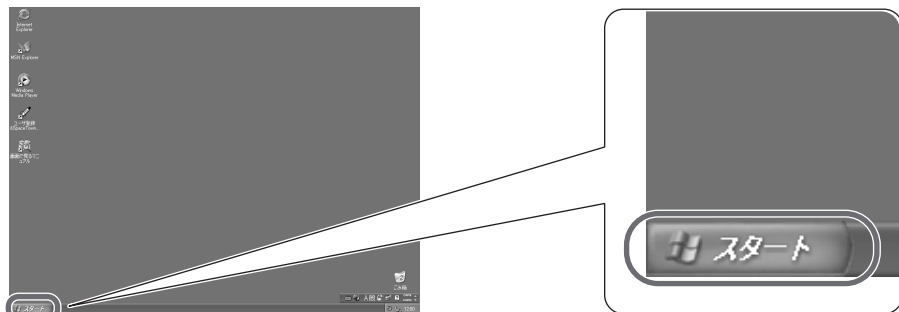
リカバリCDから再インストールする場合は以下のものもご用意ください

- 650MBまたは700MBの動作確認済みの新しいCD-R：5枚
- ペン先が硬くない油性ペンなど

すでにリカバリCDを作成している場合は以下のものをご用意ください

- 作成したリカバリCD：5枚

パソコンを準備する

1 **[スタート] をクリックします。**

スタートメニューが表示されます。

2 **「終了オプション」をクリックします。**

3 **「電源を切る」をクリックします。**

パソコンの電源が切れ、電源ランプが消えます。

4 **パソコンに周辺機器（USB 機器、IEEE1394 機器など）が接続されている場合は、周辺機器を取り外します。**

ソフトウェア使用許諾契約書を読む

再インストールをするときには、PowerQuest EasyRestoreを使用します。再インストールの前に、下記の「PowerQuest Corporationソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。

PowerQuest Corporationソフトウェア使用許諾契約書

本使用許諾契約書（以下「契約書」）は、お客様とPowerQuest Corporationとの間に締結される法的な契約書です。同封のソフトウェアを使用することにより、本契約書の各条項に同意したことになります。本契約書で言う「ソフトウェア製品」とは、本契約書が添付されたCDやディスク媒体、またはネットワークからロードされるEasyRestoreソフトウェアを意味します。

1. 所有権
ソフトウェア製品はPowerQuest Corporation（以下「PowerQuest」）またはそのライセンサーが有するものであり、著作権法および国際条約の規定により保護されています。ソフトウェア製品、その複製物、修正物、構成部分についての権原および著作権は、PowerQuestまたはそのライセンサーに帰属します。

2. ライセンスの許諾
本契約書はお客様に以下の権利を許諾します。
・ ソフトウェア製品は、コンピュータシステムに既にインストールされているソフトウェアのバックアップ目的で作成されたイメージファイルに付属して提供され、当該イメージファイルを復元する目的にのみ使用することができます。
・ ソフトウェア製品は、当該イメージファイルが付属して提供された特定のコンピュータシステムでのみ、使用することができます。

3. 使用制限
PowerQuestの許可なく、
(a) 本契約書で許諾された範囲を超えて、ソフトウェア製品の使用、複製、改造、修正してはならず、電子的または他の方法で転送することはできません。
(b) ソフトウェアを翻訳、リバースプログラム、逆アセンブルまたは逆コンパイル、またはその他の方法でリバースエンジニアリングすることはできません。

4. 技術サポート
ソフトウェア製品へのサポートは、PowerQuestおよび日本総代理店である(株)ネットジャパンが提供するものではありません。製品サポートに関しては、ソフトウェア製品をお客様に販売した供給者にお問い合わせください。

5. アメリカ合衆国政府が制限されている権利
お客様が、アメリカ合衆国政府の省庁、またはその機関に代わってソフトウェア製品を取得する場合には、以下の規定が適用されます。
・ ソフトウェア製品がプライベートな費用で開発されており、いかなる部分もパブリックドメインからの流用ではないこと。
・ ソフトウェア製品が制限された権利と共に供給されていること。
・ 政府が使用、複製、または開示を行なう場合は、DFARS 第252.227-7013の条項に定める技術
データおよびコンピュータソフトウェアに関する権利の補節 (c) (1)(ii)、また48 CFR 第52.227-19に定める商用コンピュータソフトウェアー制限された権利の補節 (c) (1) および(2)の規制に従うものとします。契約者／製造元は、PowerQuest Corporation / P.O.Box 1911 Orem, UTA 84059-1911です。

6. 限定保証
PowerQuestは、ソフトウェア製品について、お客様に直接に保証するものではありません。
PowerQuestは、ソフトウェア製品を販売した供給者に対して、ソフトウェア製品がドキュメントに従って動作することを保証してます。
ソフトウェア製品がドキュメントに従って動作しない場合にPowerQuestは修復し、当該供給者が修復後のソフトウェア製品を配布することを認めます。

7. 責任の制限
PowerQuestおよび供給者は、いかなる場合においても、ソフトウェア製品の使用または使用不能から生じるいかなる損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、またはその他の金銭的損害を含むがこれらに限定されない）について、責任を負いません。例え、PowerQuestがかかる損害の可能性について通知を受けていた場合であっても、同様です。

本契約書は、対象条項に関するお客様とPowerQuest間の完全な合意を構成するものです。本契約書は、（法の抵触の諸原則以外は）ユタ州法を準拠法とします。

詳細：本使用許諾契約に関する質問がある場合は、PowerQuestか、日本総代理店である(株)ネットジャパン宛、書面にて連絡してください。

PowerQuest Corporation / P.O.Box 1911 Orem, UTA 84059-1911
（株）ネットジャパン／〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-18-3

ハードディスクから再インストールする

ここでは、あらかじめハードディスクに保存されている再インストール用のデータを使って再インストールする方法を説明します。
再インストールする前に、**再インストールの準備をする**（☞61ページ）を参照してください。

ハードディスク全体をハードディスクから再インストールする

ハードディスク全体をフォーマットして、ご購入時の状態に復元します。

ご注意

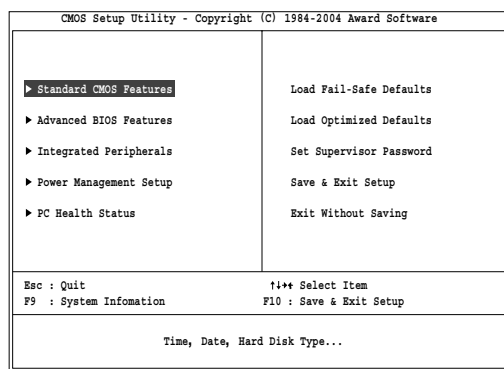
- 大切なデータは、再インストールをする前にCD-R/RWや外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

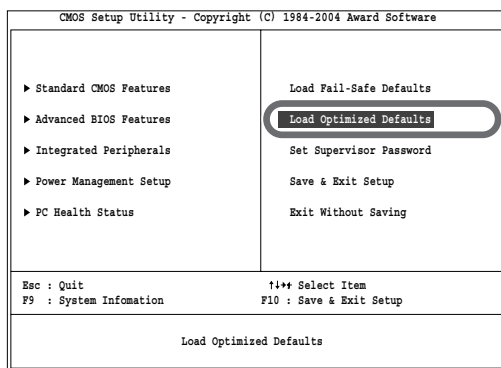
ご参考

- ハードディスクをCドライブとDドライブに分割して、Cドライブにご購入時のハードディスクの内容を復元することができます。**指定のサイズにハードディスク容量を分割してハードディスクから再インストールする**（☞69ページ）を参照してください。

Step1　セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す

1 パソコンの電源を入れ、画面の左下に「<F2> to enter Setup」と表示されたらすぐに F2 キーを押します。

セットアップユーティリティのメインメニュー画面が表示されます。

2 設定を初期値に変更します。

① ← → ↓ ↑ でメインメニュー右側の「Load Optimized Defaults」を選び、⏎ キーを押します。

②「Load Optimized Defaults (Y/N)? N」（設定を初期値に変更しますか？）と表示されたら、Y キーを押し、⏎ キーを押します。

3 設定を保存してセットアップユーティリティを終了します。

① F10 キーを押します。

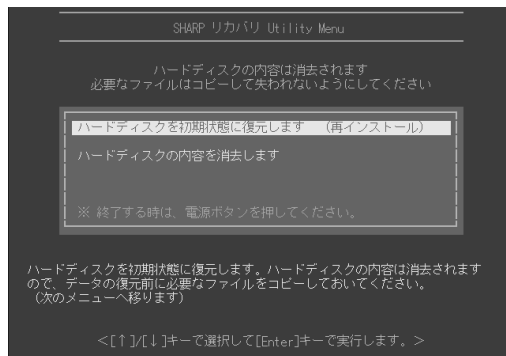
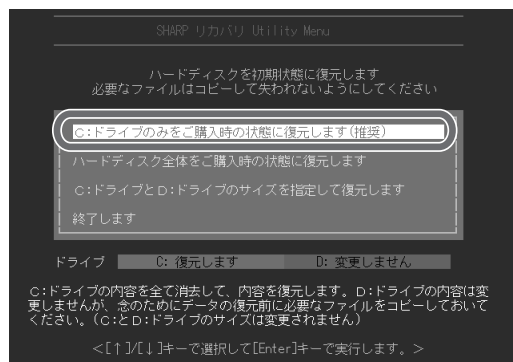
② 「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ? Y」と表示されたら、⏎キーを押します。
パソコンが再起動します。

4 パソコンが再起動し、画面の左上に「Press F10 to Recover」と表示されたらすぐに F10 キーを押します。

表示されている時間は約 2 秒です。

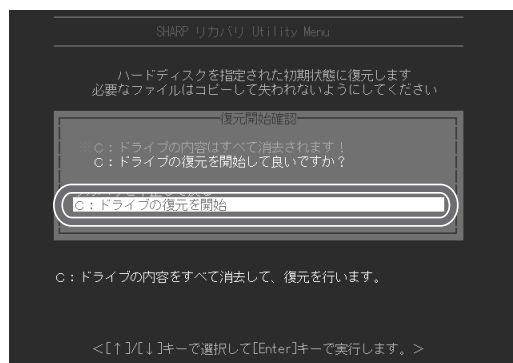
5 次の「Step2 ハードディスクから再インストール用のデータを再インストールする」に進みます。

Step2　ハードディスクから再インストール用のデータを再インストールする

1 次の画面が表示されたら、「ハードディスクを初期状態に復元します（再インストール）」が選択されていることを確認し、⏎ キーを押します。

2 「C：ドライブのみをご購入時の状態に復元します（推奨）」が選択されていることを確認し、 ↵ キーを押します。

ご参考

「終了します」を選択したときは

- 「終了します」を選択し、 ↵ キーを押したときは、パソコンが再起動します。

3 ↓ ↑ キーで「C：ドライブの復元を開始」を選択し、 ↵ キーを押します。

C ドライブのフォーマット（初期化）と内容の復元が始まります。

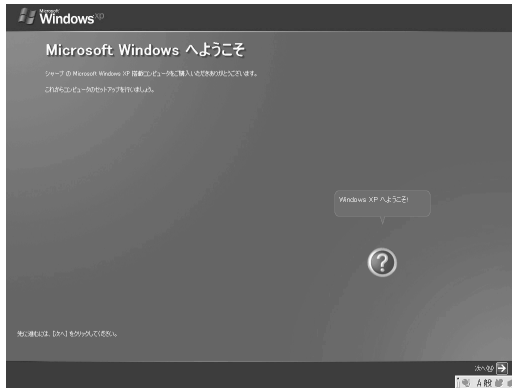
ご注意

- フォーマット中および復元中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。
再インストールを途中で中止してしまうとWindowsを起動できなくなります。
その場合は、最初から再インストールし直してください。

4 ハードディスクのリカバリ処理が終了すると、パソコンが再起動します。

5 次の「Step3 Windows をセットアップする」に進みます。

Step3　Windows をセットアップする

パソコンが再起動して、しばらくすると「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されます。

1 **「取扱説明書　接続と準備」（別冊）の「Windows のセットアップ」を参照して、Windows をセットアップします。**

ただし、セットアップ後のユーザー登録はする必要がありません。
これで再インストールは完了です。

その他の方法でハードディスクから再インストールする

指定のサイズにハードディスク容量を分割してハードディスクから再インストールする

ハードディスク全体をフォーマットして、指定のサイズの C ドライブと D ドライブに設定し、C ドライブをご購入時の状態に復元します。

ご注意

- 大切なデータは、再インストールをする前にCD-R/RWや外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

1 **「Step1　セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す」（☞66 ページ）の手順 1 ～ 4 の作業をします。**

困ったときは

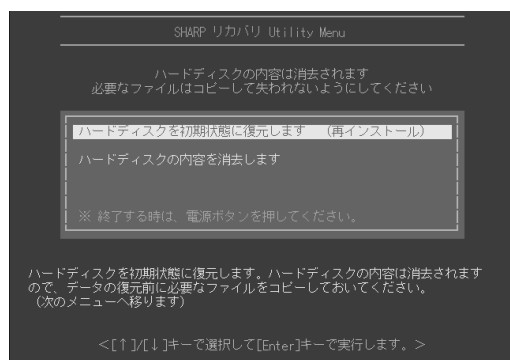
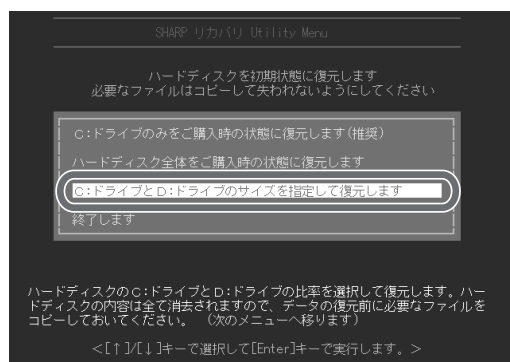
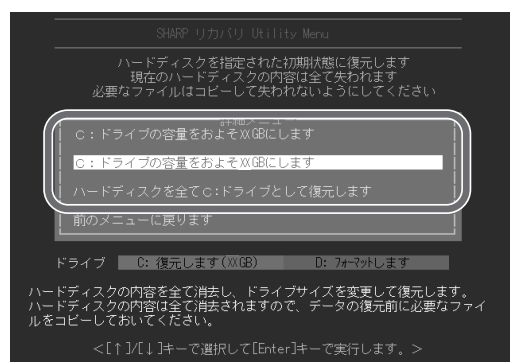
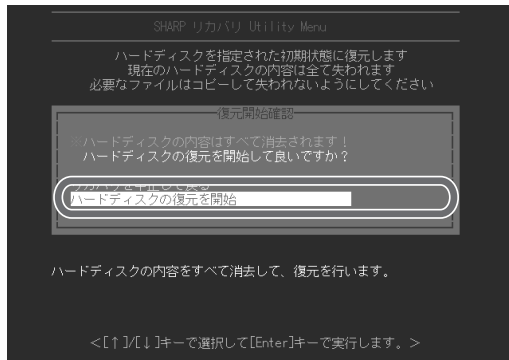
2 次の画面が表示されたら、「ハードディスクを初期状態に復元します（再インストール）」が選択されていることを確認し、[↵] キーを押します。

3 [↓] [↑] キーで「C：ドライブとD：ドライブのサイズを指定して復元します」を選択し、[↵] キーを押します。

4 [↓] [↑] キーでCドライブの容量を選択し、[↵] キーを押します。

5 **[↓] [↑] キーで「ハードディスクの復元を開始」を選択し、[⏎] キーを押します。**

ハードディスクのフォーマット（初期化）と内容の復元が始まります。

ご注意

- フォーマット中および復元中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。
  再インストールを途中で中止してしまうとWindowsを起動できなくなります。その場合は、最初から再インストールし直してください。

6 **ハードディスクのリカバリ処理が終了すると、パソコンが再起動します。**

7 **「取扱説明書　接続と準備」（別冊）の「Windows のセットアップ」を参照して、Windows をセットアップします。**

ただし、セットアップ後のユーザー登録はする必要がありません。
これで再インストールは完了です。

リカバリ CD から再インストールする

このパソコンにはリカバリ CD が付属していません。
リカバリCDから再インストールする前にまず、再インストール用のデータをCD-R にコピーしてリカバリ CD を作成する必要があります。ここでは、リカバリ CD の作成方法と、そのリカバリ CD を使って再インストールする方法を説明します。
再インストールする前に、**再インストールの準備をする**（☞61 ページ）を参照してください。

リカバリ CD を作成する

リカバリ CD を作成するときの準備

リカバリ CD を作成する前に、次の準備をしてください。

- 「電源オプションのプロパティ」画面で「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」、「システムスタンバイ」および「システム休止状態」を「なし」にする。
- 関係のないソフトや、自動的に起動するソフトは終了する。
- スクリーンセーバーを「なし」にする。

必要なものを準備する

リカバリ CD を作成する前に、次のものを準備してください。

- 650MBまたは700MBの動作確認済みの新しいCD-Rを5枚ご用意ください。動作確認済みの CD-R については、**取扱説明書　活用編**（別冊）の**使用可能なディスク**を参照してください。
- ペン先が硬くない油性ペンなど

ご注意

- リカバリ CD は一度しか作成できません。

ご参考

- 一度リカバリCDを作成しておくと、2回目以降は作成する必要はありません。また、リカバリCDの作成を途中で中止しても、最初からやり直してリカバリCDを作成することができます。
- リカバリCDを作成した後も、ハードディスクから再インストールすることができます。

ソフトウェア使用許諾契約書を読む

リカバリ CD を作成するときには、Bootable CD Creator を使用します。リカバリCDを作成する前に、下記の「Bootable CD Creatorソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。

Bootable CD Creatorソフトウェア使用許諾契約書

本ソフトウェアに含まれるプログラム（Bootable CD Creator）、データおよびマニュアル（以下総称して「本製品」という）は、Enterprise Corporation International（以下「ＥＣＩ」という）が権利を所有しており、下記の条項が遵守されることを条件に、お客様に対し非譲渡および非独占の、本製品の使用に関する権利を許諾します。本製品は、米国著作権法および国際著作権条約、無体財産権に関するその他の法律により保護されています。お客様には、この旨をご理解していただき、さらに下記の各条項の全てにご同意の上、ご使用していただきます。

使用目的：

本製品は、シャープ（株）が製造するコンピュータに添付され出荷されています。本製品は、本製品が添付されているコンピュータのハードディスクにプリインストールされているリカバリー用イメージファイルを、Bootable CDとして作成、保存するためにのみ使用するものとします。本製品は、本製品が添付されたコンピュータでのみ使用することができます。

次の条項を禁止します:

1. 本製品の全部または一部をインストール以外の方法で別の媒体に複製すること。
2. 本製品を2台以上のコンピュータにインストールし、本製品を使用可能とすること。
3. 本製品および複製の全部または一部を改変したり、第三者に譲渡、販売頒布（パソコン通信のネットワークを通じて通信により提供することを含む）すること。
4. 本製品に表示されている著作権その外権利者の表示を削除したり変更を加えること。
5. 本製品および複製の全部または一部をリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルすること。
6. 本製品および複製の全部または一部を判読可能な状態にすること。
7. 本製品および複製の全部または一部を本製品以外のプログラムから読み出して利用すること。
8. ネットワークを利用して複数ユーザーが使用すること。

本契約はお客様が本製品のパッケージを開封したときより効力を生じ、お客様が本製品およびその複製物すべてを使用不可能な状態で破棄されることにより終了します。またお客様が本契約の条項のいずれかに違反した場合は、ＥＣＩは本製品の使用を終了させることができます。

制限付き保証：

ＥＣＩは、本製品が付属するＥＣＩの資料に従ってほぼ動作することを保証します。ＥＣＩおよびシャープ（株）は他のすべての明示的、暗黙的な、いかなる保証および条件も行わないことを明言します。これには、本製品に関連した商用性の暗黙の保証、特定の目的に対する適合性、タイトル、違反がないことの保証を含みますが、それらに限りません。

責任の制限：

ＥＣＩおよびシャープ（株）は、本製品の使用または使用不可能な状態、その使用に起因する特別な、偶発的な、あるいは結果的な損害に責任を負いません。これには、業務上の利益の損失、業務の中断、業務情報の喪失、その他の金銭上の損失を含みますが、それらに限りません。これはＥＣＩが当該損失の可能性の通知を受けている場合でもその限りではありません。いかなる保証および条件も行わないことを明言します。これには、本製品に関連した商用性の暗黙の保証、特定の目的に対する適合性、タイトル、違反がないことの保証を含みますが、それらに限りません。

Bootable CD Creator でリカバリ CD を作成する

1　新しい CD-R を CD/DVD ドライブにセットします。

「Windowsが実行する動作を選んでください」と表示されたときは、画面右上の をクリックして画面を閉じてください。

2　［スタート］をクリックし、「すべてのプログラム」－「プロダクトリカバリ CD 作成」をクリックします。

Bootable CD Creator（付属ソフト）が起動します。

3　「速度」欄の をクリックして、リストから使用する CD-R に応じた書き込み速度を選択し、［リカバリディスクの作成］をクリックします。

4　確認画面で［はい］をクリックします。

5　確認画面で［OK］をクリックします。

CD への書き込みが始まります。

ご注意

- CD書き込み中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。

6　画面の指示に従って、新しい CD-R と入れ換えます。

書き込みが完了したリカバリCDから、ペン先が硬くない油性ペンなどで「リカバリ CD ディスク 1」、「リカバリ CD ディスク 2」…と、順にディスク番号を書いてください。

ご参考

- 「Windowsが実行する動作を選んでください」と表示されたときは、画面右上の をクリックして画面を閉じてください。

7 **「ディスクの作成が完了しました」と表示されたら [OK] をクリックし、[終了] をクリックします。**

ご注意

- 作成したリカバリ CD は、失わないよう大切に保管しておいてください。

8 **確認画面で[はい]をクリックして 、「Bootable CD Creator」画面を閉じます。**

9 **CD/DVD ドライブから CD-R を取り出してください。**

困ったときは

ハードディスク全体をリカバリ CD から再インストールする

ディスク全体をフォーマットして、ご購入時の状態に復元します。
再インストールする前に、**再インストールの準備をする**（☞61ページ）を参照してください。

ご注意

- 大切なデータは、再インストールをする前にCD-R/RWや外付けハードディスクなどにバックアップしてください。

ご参考

- ハードディスクをC ドライブとD ドライブに分割して、C ドライブにご購入時のハードディスクの内容を復元することができます。**指定のサイズにハードディスク容量を分割してリカバリ CD から再インストールする**（☞81 ページ）を参照してください。

Step1　セットアップユーティリティの設定を変更する

1　パソコンの電源を入れ、画面の左下に「<F2> to enter Setup」と表示されたらすぐに F2 キーを押します。

セットアップユーティリティのメインメニュー画面が表示されます。

2　「リカバリCDディスク 1」をCD/DVD ドライブにセットします。

3 設定を初期値に変更します。

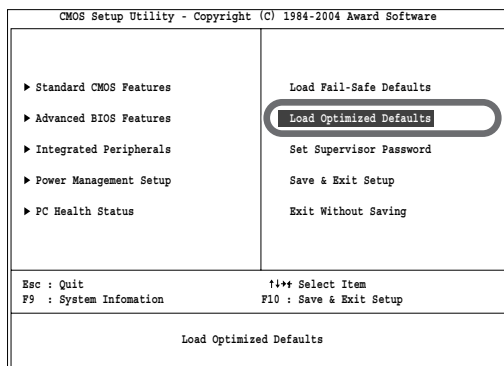
① ← → ↓ ↑ でメインメニュー右側の「Load Optimized Defaults」を選び、⏎ キーを押します。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2004 Award Software

▶ Standard CMOS Features
▶ Advanced BIOS Features
▶ Integrated Peripherals
▶ Power Management Setup
▶ PC Health Status

Load Fail-Safe Defaults
Load Optimized Defaults
Set Supervisor Password
Save & Exit Setup
Exit Without Saving

Esc : Quit　　↑↓→← Select Item
F9 : System Infomation　　F10 : Save & Exit Setup

Load Optimized Defaults

② 「Load Optimized Defaults (Y/N)? N」（設定を初期値に変更しますか？）と表示されたら、Y キーを押し、⏎ キーを押します。

4 CD-ROM から起動するようにします。

① ↓ ↑ で「Advanced BIOS Features」を選び、⏎ キーを押します。

② ↓ ↑ で「Boot Sequence」を選び、⏎ キーを押します。

③ ↓ ↑ で「First Boot Device」を選び、⏎ キーを押します。

④ ↓ ↑ で「CDROM」を選び、⏎ キーを押します。

⑤ ↓ ↑ で「Third Boot Device」を選び、⏎ キーを押します。

⑥ ↓ ↑ で「HDD」を選び、⏎ キーを押します。

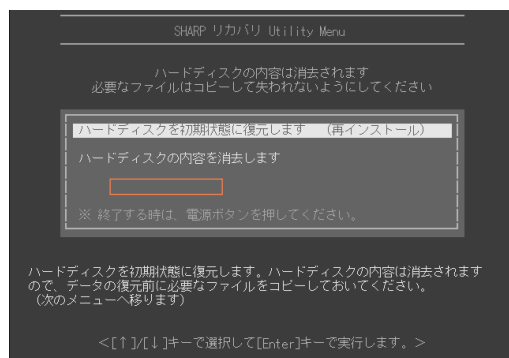
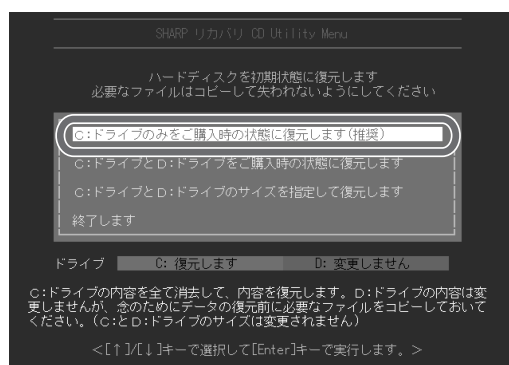
5 設定を保存してセットアップユーティリティを終了します。

① F10 キーを押します。

② 「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ?　Y」と表示されたら、⏎ キーを押します。

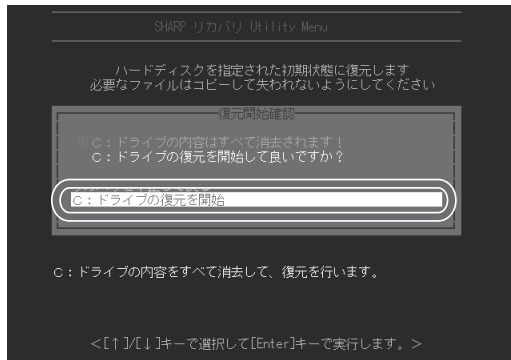
6 次の「Step2　リカバリ CD の内容を再インストールする」に進みます。

Step2　リカバリ CD の内容を再インストールする

1 次の画面が表示されたら、「ハードディスクを初期状態に復元します（再インストール）」が選択されていることを確認し、[↵] キーを押します。

2 「C：ドライブのみをご購入時の状態に復元します（推奨）」が選択されていることを確認し、[↵] キーを押します。

ご参考

「終了します」を選択したときは

- 「リカバリ CD ディスク 1」を CD/DVD ドライブから取り出し、電源ボタンを押して電源を切ってください。

3 ↓ ↑キーで「C：ドライブの復元を開始」を選択し、⏎キーを押します。

C ドライブのフォーマット（初期化）と内容の復元が始まります。

ご注意

- フォーマット中および復元中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。
  再インストールを途中で中止してしまうとWindowsを起動できなくなります。その場合は、最初から再インストールし直してください。

4 途中、以下のようなディスクを入れ替えるメッセージが表示されますので、リカバリ CD を入れ替えてください。

ディスクの番号を表します。

たとえば、上記画面のように「メディア2」と表示されているときは、「リカバリ CD ディスク 2」を CD/DVD ドライブにセットし、⏎キーを押します。

5 ハードディスクのリカバリ処理が終了すると、パソコンが再起動しまので、次の「Step3 Windowsをセットアップする」に進みます。

Step3　Windows をセットアップする

パソコンが再起動して、しばらくすると「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されます。

1 **CD/DVD ドライブからリカバリ CD を取り出します。**

2 **「取扱説明書　接続と準備」（別冊）の「Windows のセットアップ」を参照して、Windows をセットアップします。**

ただし、セットアップ後のオンラインユーザー登録はする必要がありません。

3 **次の「Step4　セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す」に進みます。**

Step4　セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す

Windows が起動した状態から作業します。

1 **Windows を終了します。**

2 **約 10 秒待ってからパソコンの電源を入れ、画面の左下に「<F2> to enter Setup」と表示されたらすぐに F2 キーを押します。**

セットアップユーティリティのメインメニュー画面が表示されます。

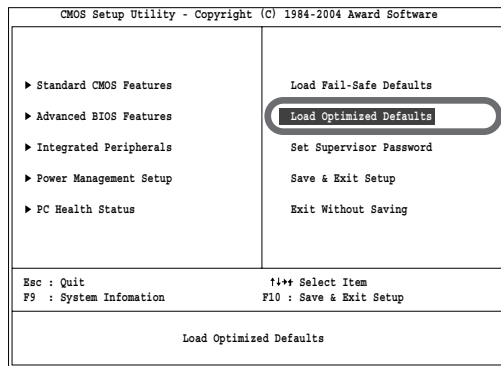
困ったときは

3 設定を初期値に変更します。

① ← → ↓ ↑ でメインメニュー右側の「Load Optimized Defaults」を選び、↵ キーを押します。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2004 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶ Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶ Power Management Setup	Save & Exit Setup
▶ PC Health Status	Exit Without Saving
Esc : Quit F9 : System Infomation	↑↓→← Select Item F10 : Save & Exit Setup

Load Optimized Defaults

② 「Load Optimized Defaults (Y/N)? N」（設定を初期値に変更しますか？）と表示されたら、**Y** キーを押し、↵ キーを押します。

ご参考

- セットアップユーティリティの項目は、必要に応じて設定し直してください。

4 設定を保存してセットアップユーティリティを終了します。

① **F10** キーを押します。

② 「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ?　Y」と表示されたら、↵ キーを押します。
パソコンが再起動します。

これで再インストールは完了です。

その他の方法でリカバリ CD から再インストールする

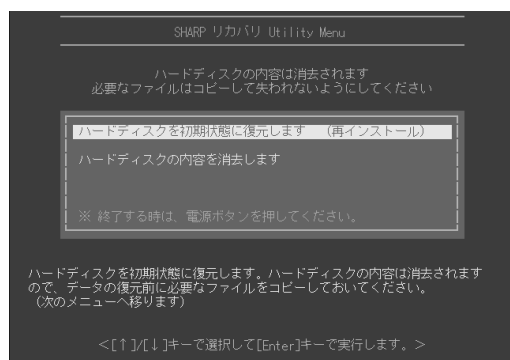
指定のサイズにハードディスク容量を分割してリカバリCDから再インストールする

ハードディスク全体をフォーマットして、指定のサイズのCドライブとDドライブに 設定し、Cドライブをご購入時の状態に復元します。

ご注意

- 大切なデータは、再インストールをする前にCD-R/RWや外付けハードディスクなどにバックアップしてください。
- ハードディスクに保存されている再インストール用のデータも削除されます。HDDからの再インストールができなくなりますので、ご注意ください。

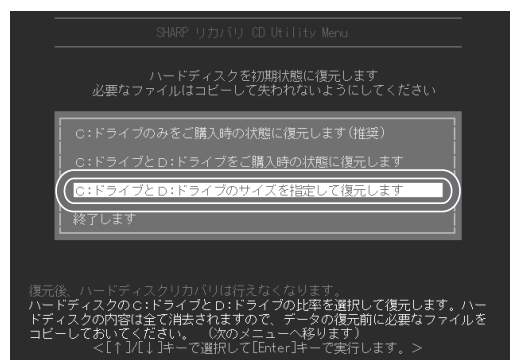
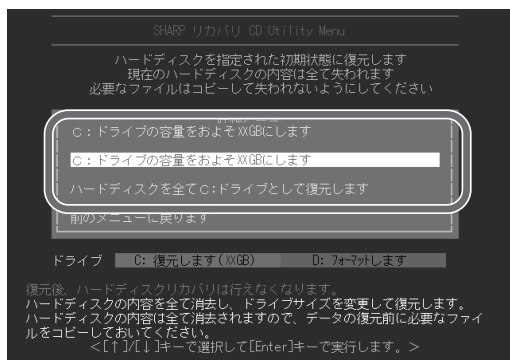
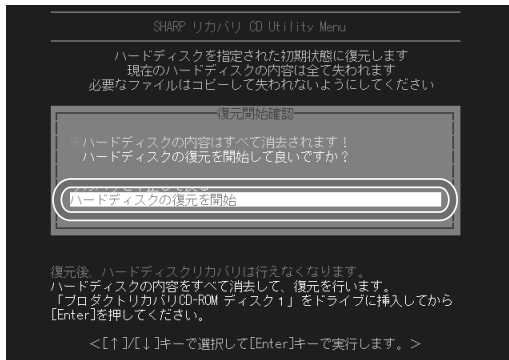
1 「Step1　セットアップユーティリティの設定を変更する」（☞76ページ）の手順1～5の作業をします。

2 次の画面が表示されたら、「ハードディスクを初期状態に復元します（再インストール）」が選択されていることを確認し、[↵] キーを押します。

3 [↓] [↑] キーで「**C**：ドライブと **D**：ドライブのサイズを指定して復元します」を選択し、[↵] キーを押します。

4 [↓] [↑] キーで **C** ドライブの容量を選択し、[↵] キーを押します。

5 ［↓］［↑］キーで「ハードディスクの復元を開始」を選択し、［⏎］キーを押します。

ハードディスクのフォーマット（初期化）と内容の復元が始まります。

ご注意

- フォーマット中および復元中は、画面に進行状況が表示されます。次の操作案内が表示されるまで、何も操作しないでください。
  再インストールを途中で中止してしまうとWindowsを起動できなくなります。その場合は、最初から再インストールし直してください。

6 「Step2　リカバリCDの内容を再インストールする」の手順3～5（☞79ページ）の作業をします。

7 CD/DVD ドライブからリカバリ CD を取り出します。

8 「取扱説明書　接続と準備」（別冊）の「Windows のセットアップ」を参照して、Windows をセットアップします。

ただし、セットアップ中のユーザー登録はする必要がありませんので、省略して進んでください。

9 「Step4　セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す」（☞80ページ）の手順1～4の作業をします。

これで再インストールは完了です。

付録

セットアップユーティリティ

セットアップユーティリティは、パソコンの動作環境に関する設定（接続した周辺機器の有効／無効、パスワードの設定など）を変更するためのユーティリティです。

セットアップユーティリティの内容は、ご購入時に適切に設定されています。必要なとき以外は操作しないでください。
セットアップユーティリティには、次のようなメニューがあります。

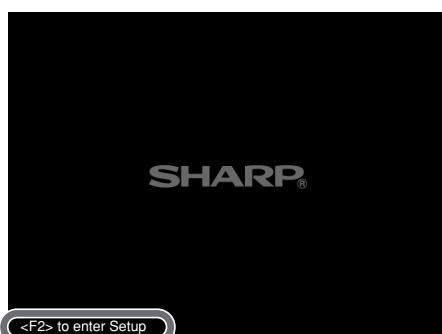
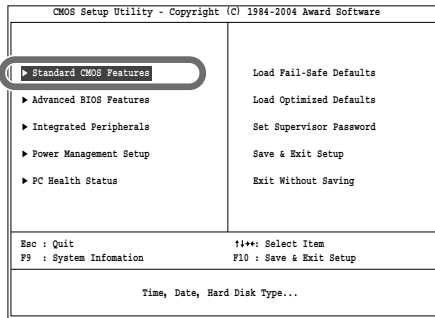
- Standard CMOS Features メニュー
- Advanced BIOS Features メニュー
- Integrated Peripherals メニュー
- Power Management Setup メニュー
- PC Health Status メニュー

- 誤って変更してしまったときは、**すべての設定を初期値に戻す**（☞96ページ）の操作をしてください。

設定内容を変更する

1 **電源を入れます。**

2 **画面の左下に「<F2> to enter Setup」と表示されたらすぐに F2 キーを押します。**
セットアップユーティリティのメインメニュー画面が表示されます。

付録

3 ← → ↓ ↑ で設定したいメニュー（または項目）を選び、⏎ キーを押します。

選んだメニューの設定項目が表示されます。
▶ マークのある項目にはサブメニューがあります。

4 各項目を設定します。

画面の下段に操作案内が表示されています。

← → ↓ ↑ と ⏎ ：設定項目を選びます。
↓ ↑ と ⏎ ：設定内容を切り換えます。
0 ～ 9 ：日付や時刻を入力します。
Esc ：ひとつ前の画面に戻ります。

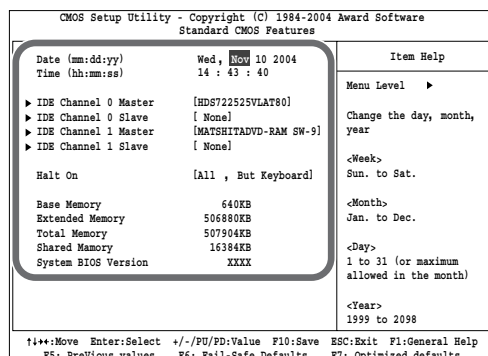
5 F10 キーを押します。

6 「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ? Y」と表示されたら、⏎ キーを押します。

変更した内容を保存してセットアップユーティリティが終了し、Windows が起動します。

付録

Standard CMOS Features メニュー

日付と時刻、ハードディスクのタイプなど、システムの基本的な設定項目があります。

Date

日付を設定します。(月/日/年の順)

Time

時刻を設定します。(24 時間制で、時/分/秒の順)

IDE Channel 0 Master

IDE Channel 0 Slave

IDE Channel 1 Master

IDE Channel 1 Slave

IDE ハードディスクのパラメータを設定します。

通常はご購入時の状態のままでお使いください。

Halt On

どのようなエラーが発生したときにシステムを停止させるかを設定します。

All Errors :すべてのエラー
No Errors :エラーを無視する
All, But Keyboard :キーボード以外のすべてのエラー

Base Memory

MS-DOS で直接使用するコンベンショナルメモリーのサイズが表示されます。常に「640KB」に設定されます。

付録

Extended Memory

1MB 以上のエクステンドメモリーのサイズが表示されます。

Total Memory

メモリーの合計サイズが表示されます。

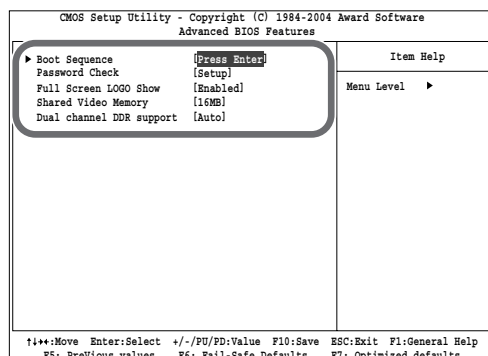
Shared Memory

MS-DOS でのビデオメモリーのサイズが表示されます。

System BIOS Version

セットアップユーティリティ（BIOS）のバージョンが表示されます。

Advanced BIOS Features メニュー

システム起動時にデータを読み取りに行く場所(デバイス)、ビデオメモリーの割り当てサイズなどの設定項目があります。

Boot Sequence

システム起動時に使用するデバイスの順序を設定します。それぞれの項目に同じドライブが重複しないように設定してください。

First Boot Device : 最初に使用するデバイス
Second Boot Device : 2番目に使用するデバイス
Third Boot Device : 3番目に使用するデバイス
HDD : ハードディスクドライブから起動
CDROM : CD/DVDドライブから起動
USB-FDD : 外付けのフロッピーディスクドライブから起動
USB-CDROM : 外付けのCD/DVDドライブから起動
USB-HDD : 外付けのハードディスクから起動
LAN : ネットワーク(LAN)上の起動用(サーバーから起動)

Password Check

パスワードを設定している場合に、パスワード入力画面をいつ表示させるかを設定します。

Setup : セットアップユーティリティを開いたとき
System : セットアップユーティリティを開いたときと、パソコンを起動したとき

付録

Full Screen LOGO Show

パソコンの電源を入れたとき、「SHARP」のロゴを表示する／表示しないを設定します。

Enabled　：表示する

Disabled　：表示しない

Shared Video Memory

ビデオメモリーのサイズ（8M/ 16M/ 32M）を設定します。
Windows上ではドライバーにより最大96MBまで自動的に割りつけられます。

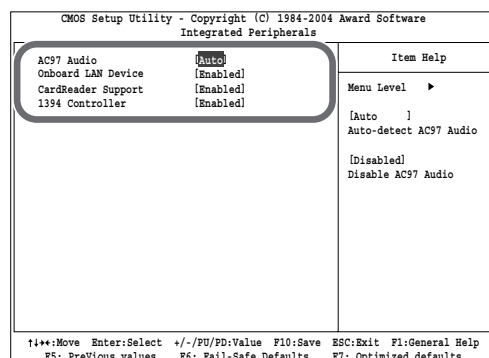
Dual channel DDR support

デュアルチャンネル DDR メモリーに対応するかどうかを設定します。
通常はご購入時の状態のままでお使いください。

Auto　：自動

Disabled　：無効

Integrated Peripherals メニュー

内蔵LAN、カードリーダー、IEEE1394 コネクターなど、主に周辺機器（入出力デバイス）の設定項目があります。

AC97 Audio

AC97 Audio コーデックの自動／無効を設定します。

Auto　：自動にする

Disabled　：無効にする

Onboard LAN Device

内蔵 LAN デバイスの有効／無効を設定します。

Enabled　：有効にする

Disabled　：無効にする

CardReader Support

SDメモリーカード／メモリースティック／スマートメディアカードスロットとコンパクトフラッシュカードスロットの有効／無効を設定します。

Enabled　：有効にする

Disabled　：無効にする

1394 Controller

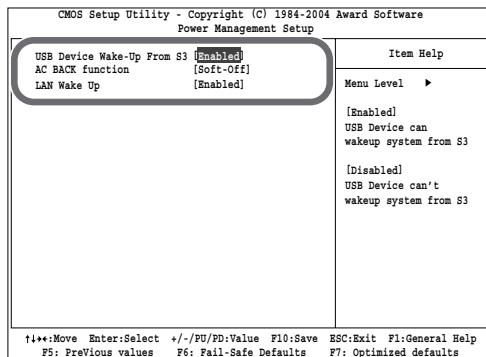
IEEE1394 コネクターの有効／無効を設定します。

Enabled　：有効にする

Disabled　：無効にする

付録

Power Management Setup メニュー

電源管理のほか、システムの自動起動についての設定項目があります。

USB Device Wake-Up From S3

USBキーボード／USBマウス／リモコンを操作することで、スタンバイから復帰するかどうかを設定します。

Enabled ：復帰する

Disabled ：復帰しない

AC BACK Function

停電などが復旧して電源供給が回復したときに、パソコンを自動的に起動するかどうかを設定します。

Soft-Off ：起動しない

Full-On ：起動する

Memory ：電源が遮断される直前と同じ状態にする

「Full-On」にすると、電源供給回復時にパソコンの電源が自動的に入って便利ですが、地震などの自然災害時は予期せぬ事故につながる可能性もあります。通常はご購入時の状態のままでお使いください。

LAN Wake Up

ネットワーク（LAN）上の他のパソコンからの操作によって、スタンバイから復帰するかどうかを設定します。

Enabled ：復帰する

Disabled ：復帰しない

PC Health Status メニュー

システムの状態を表示します。

Vcore

コア（チップの中心部）が動作するのに必要な電圧が表示されます。

＋ 3.3V

システムの 3.3V 電源の状態が表示されます。

＋ 5V

システムの 5V 電源の状態が表示されます。

＋ 12V

システムの 12V 電源の状態が表示されます。

Current System Temperature

システムの温度が表示されます。

Current CPU Temperature

CPU の温度が表示されます。

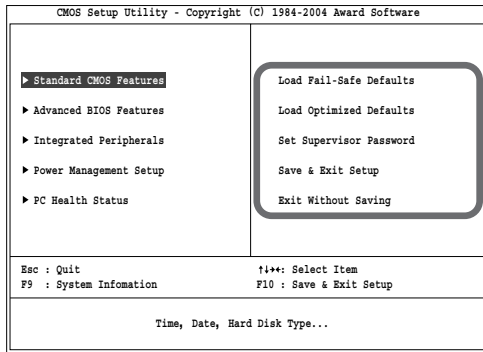
Current CPU FAN Speed

CPU 用ファンの速度が表示されます。

Current System FAN Speed

システム用ファンの速度が表示されます。

メインメニュー右側の項目について

セットアップユーティリティの設定を初期値に戻したり、セットアップユーティリティを終了したり、パスワードを設定したりするための項目があります。

Load Fail-Safe Defaults

特殊な場合に使用するもので、通常は使用することはありません。

Load Optimized Defaults

このパソコンに適した初期設定に戻ります。

Set Supervisor Password

スーパーバイザパスワードを設定します。

Save & Exit Setup

変更内容を保存してセットアップユーティリティを終了します。

Exit Without Saving

変更内容を保存しないでセットアップユーティリティを終了します。

すべての設定を初期値に戻す

1 **←→↓↑でメインメニュー右側の「Load Optimized Defaults」を選び、⏎キーを押します。**

2 **「Load Optimized Defaults (Y/N) ? N」と表示されたら、Yキーを押し、⏎キーを押します。**

すべての設定が初期値に戻ります。

3 **F10キーを押します。**

4 **「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ? Y」と表示されたら、⏎キーを押します。**

設定内容を保存してセットアップユーティリティが終了し、Windowsが起動します。

パソコンの廃棄・譲渡時にデータを消去する

パソコンを廃棄や譲渡するときは、お客さまの重要なデータが流出するトラブルを防ぐために次の手順にしたがってハードディスクの全データを消去してください。

ハードディスクのデータは、データの削除やハードディスクの初期化を行なっただけでは市販のデータ回復ソフトで復元される場合があります。パソコンを廃棄や譲渡するときは、重要なデータが復元され流出しないようにハードディスクの全データを消去してください。（☞取扱説明書　接続と準備（別冊）のパソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意）

ご参考

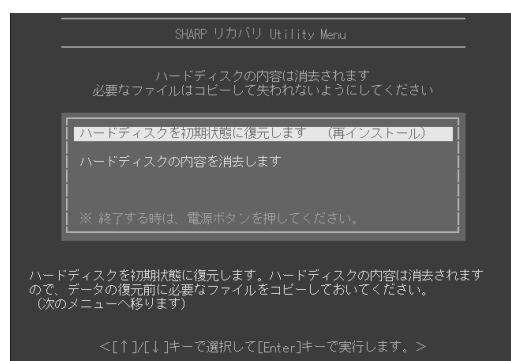
- 大切なデータは、データの消去を行う前に、CD-R/RW や外付ハードディスクドライブなどにバックアップしてください。
- この操作を行っても、完全にデータを復元できなくなるわけではありません。

ハードディスクのデータを消去する

ご参考

- パソコンを譲渡するときは、消去後も再インストール用のデータは消去されませんので、データ消去後にパソコンをご購入時の状態に戻して譲渡できます。
- 消去後に再インストールを行う場合は、ハードディスク全体をハードディスクから再インストールする（☞65 ページ）を参照し、再インストールしてください。
- 市販のパーティション変更ツールを使って、ハードディスクのパーティション設定を変更すると、データの消去ができないことがあります。その場合は、リカバリ CD を利用してハードディスクのデータを消去する（☞99ページ）を参照し、ハードディスクのデータを消去してください。

1　**「Step1 セットアップユーティリティの設定を初期値に戻す」（☞66 ページ）の手順 1 ～ 4 の作業をします。**

作業が終了し、パソコンが再起動した後、次の画面が表示されます。

リカバリUtility画面が表示されない場合は、リカバリCDを利用してハードディスクのデータを消去する（☞99ページ）を参照し、ハードディスクのデータを消去してください。

2 **↓ キーで「ハードディスクの内容を消去します」を選択し、⏎ キーを押します。**

3 **↓ キーで「次へ」を選択し、⏎ キーを押します。**

4 **↓ ↑ キーで消去のレベルを選択し、⏎ キーを押します。**

消去のレベルが高いほど処理時間は長くなりますが、より確実に消去され、復元されにくくなります。

5 **↓ キーで「消去します」を選択し、⏎ キーを押します。**

6 **「ERASE」と入力し、⏎ キーを押します。**

7 **↓ キーで「はい」を選択し、⏎ キーを押します。**

ハードディスクの消去が始まります。

ご注意

- 消去中は、パソコンの電源を切らないでください。故障の原因になります。

ご参考

- 消去を中断するには Esc キーを押します。
- 消去中、ハードディスクの読み書きができなくなった部分がある場合は、不良セクタとして画面に表示されます。不良セクタ部分は消去されません。
- 不良セクタがある場合、通常の処理時間より時間がかかります。

リカバリ CD を利用してハードディスクのデータを消去する

リカバリ CD を利用してハードディスクのデータを消去することもできます。この操作を行うにはリカバリ CD を作成しておく必要があります。（**リカバリ CD を作成する** ☞72 ページ）

ご注意

- リカバリCDからハードディスクのデータを消去すると、ハードディスクに保存されている再インストール用のデータも消去されますので、ハードディスクからの再インストールやハードディスクのデータ消去はできなくなります。

ご参考

- 消去後にリカバリCDを利用して再インストールを行なう場合は、ハードディスク全体を再インストールしてください。

1 **「セットアップユーティリティの設定を変更する」（☞76 ページ）の手順 1 ～ 5 までの作業をします。**

パソコンが再起動します。

2 **パソコンが起動し、リカバリ Utility の画面が表示されたら、「ハードディスクの内容を全て消去します」を選択し、[⏎] キーを押します。**

3 **「ハードディスクのデータを消去する」（☞97ページ）の手順3 ～ 7 までの操作をします。**

メモリーを増設するときは

お客様ご自身によるメモリー増設はできません。
本製品に対応した増設メモリーをご購入いただいたあと、増設作業は、パソコン修理相談センター（出張対応）またはパソコン修理相談窓口（持ち込み対応）にご依頼いただくか、本体をご購入された販売店へご相談いただきますようお願いいたします。(有料)

- 出張による増設サービスのご相談、お申し込み
  パソコン修理相談センター
  http://www.sharp.co.jp/support/pc-call.htm
- 製品持ち込みによる増設サービス受付窓口
  パソコン修理相談窓口
  http://www.sharp.co.jp/support/shousn3.html

なお、使用可能な増設メモリーについては、下記メビウスのホームページの機種別ページを参照してください。
http://support.sharp.co.jp/mebius/

仕様一覧

形名				PC-TX32J
インストールOS※a				Microsoft Windows XP Home Edition Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載
CPU				インテル Celeron D プロセッサ 335 (2.80GHz)
	キャッシュメモリー			1次：16KB、2次：256KB内蔵
チップセット				インテル865GV
システムバス(メモリーバス)				533MHz(333MHz)
メインメモリー				標準512MB (有料増設サービス対応：最大2GB※1) (DDR-SDRAM)
	メモリースロット			2スロット（空きスロット1※1）
表示機能	解像度（色数）			1,360×768ドット、1,280×768ドット、1,024×768ドット、800×600ドット（すべて最大約1,677万色）
	グラフィックアクセラレーター			インテル 865GV（チップセットに内蔵）
	ビデオメモリー			最大96MB（メインメモリーを使用）※2
入力装置	キーボード			ポインティングデバイス内蔵ワイヤレスキーボード付属（RF無線方式）、87キー
		キーピッチ／キーストローク		約19mm※3／約3.5mm
	ポインティングデバイス			トラックボール（キーボードに内蔵）
	リモコン			ポインティングデバイス内蔵専用リモコン付属（赤外線方式）
	その他			クイックスタートボタン
記憶装置	ハードディスクドライブ※b			約250GB内蔵（Ultra ATA/100）
		Windowsのシステムから認識できるドライブ全体の容量		約232.8GB（Cドライブ：約228.0GB、残りはリカバリ領域として使用）
		フォーマット		NTFS
	フロッピーディスクドライブ			別売（3モード対応 3.5型、外付）
	CD/DVDドライブ			DVDスーパーマルチドライブ（DVD＋R 2層書込対応）（DVD-RAM＆±R/RW対応）内蔵※4
		書込速度※c	DVD±R	最大12倍速
			CD-R	最大40倍速
		書換速度※c	DVD-RAM	最大5倍速※5（片面2.6GB／両面5.2GBは非対応)
			DVD-RW	最大6倍速
			DVD+RW	最大8倍速
			CD-RW	最大24倍速
		読出速度	DVD-ROM	最大16倍速(1層)／最大8倍速(2層)
			DVD-RAM	最大5倍速※5 (片面4.7GB／両面9.4GB)／等倍速(片面2.6GB／両面5.2GB)
			DVD-R	最大12倍速
			DVD+R	最大12倍速(1層)／最大8倍速(2層)
			DVD±RW	最大8倍速
			CD-ROM/R	最大40倍速
			CD-RW	最大24倍速
		バッファアンダーランエラー防止機能		対応
通信機能	LAN			100BASE-TX ／10BASE-T
カードスロット	CFカード			1
	SDメモリーカード			1（メモリースティックPro対応）※6
	メモリースティック			
	スマートメディア			
テレビ機能	テレビチューナー			受信チャンネル：VHF(1〜12ch)、UHF(13〜62ch)、CATV(C13〜C63ch)※7（地上デジタル放送、BS放送、CS放送は受信できません）
	高画質化回路			MPEG-2/MPEG-1ハードウェアエンコーダー、動き適応型3次元Y/C分離回路、ゴーストリダクション、動き適応型ノイズリダクション、フレームTBC（タイムベースコレクター）、10bit A/Dコンバータ
サウンド機能				AC'97 準拠サウンドシステム内蔵、サブウーハー付属

形名			PC-TX32J
インタフェース	表示／映像／サウンド		ディスプレイ出力（アナログRGB、ミニD-sub 15ピン)[※8]×１、S映像入力×１[※9]、ビデオ映像入力(RCAピン)[※9]×１、ビデオ音声入力（L/R)（RCAピン）×1、TVアンテナ入力(VHF/UHF)[※9]×1、マイクロホン入力（φ3.5mmモノラルミニジャック）×1、ライン入力（φ3.5mmステレオミニジャック）×1、ライン出力（φ3.5mmステレオミニジャック）×1、光デジタルオーディオ出力(角型)×１
	汎用／その他		USB（USB2.0準拠）×4、IEEE1394(4ピン）[※10※11]×1、IEEE1394(6ピン）[※11]×1
電源	ACアダプター		100〜240V、50/60Hz
消費電力			最大 約180W
2005年度省エネルギー基準達成率[※d]			AAA
エネルギー消費効率[※e]			P区分　0.00072
温湿度条件			10〜35℃／20〜80%（非結露）
外形寸法（突起部除く）幅×奥行×高さ(mm)		本体	約 439×326×61
		キーボード	約 375×160×32
		サブウーハー	約 173×245×280
質量		本体	約 7.1kg
		キーボード	約 0.6kg
		サブウーハー	約 3.4kg
リカバリ方式			ハードディスクリカバリ[※12]

※a　プリインストールされているOSのみをサポートしています。
※b　1GB=10億バイトで計算した場合の数値です。
※c　CD/DVDドライブの書込・書換速度に対応したディスクをご使用ください。ご使用のディスクによっては、記録品質を保つために書込・書換速度が制限される場合があります。
ご使用のディスクの最大書込速度とCD/DVDドライブの最大書込速度が異なる場合、どちらか遅い方の最大書込速度で書き込まれます。
※d　電気・電子機器の省エネルギー基準達成率の算出方法及び表示方法(JIS C 9901)に基づく表示です。省エネルギー基準達成率は、100%以上200%未満＝A、200%以上500%未満＝AA、500%以上＝AAAで表示しています。
※e　省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
※1　お客様によるメモリー増設はできません。有料増設サービスの詳細はメビウスホームページ内サポート情報の機種別ページをご覧ください。 http://support.sharp.co.jp/mebius/
※2　Intel Dynamic Video Memory Technology(DVMT)を使用しており、パソコンの動作状況により、自動的にビデオメモリー容量が変化します。
※3　一部キーピッチが短くなっている部分があります。
※4　市販のDVD-RAM/±R/±RWには「for Data」「for　Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDレコーダーとの互換性を重視する場合には「for Video」をご使用ください。
カートリッジ式のDVD-RAMは使用できません。DVD-RAMを使用する場合は、カートリッジなしのタイプか、もしくは取り外し可能なカートリッジ（Type2またはType4）からディスクを取り出してご使用ください。
DVD-RAMに書き込む場合は、DVD-RAM　Ver.2.0またはVer.2.1に準拠したディスクをご使用ください。
DVD-RWに書き込む場合は、DVD-RW　Ver.1.1またはVer.1.2に準拠したディスクをご使用ください。
DVD-Rに書き込む場合は、DVD-R　for General Ver.2.0に準拠したディスクをご使用ください。
CPRM方式で著作権保護されたDVD-RAM/-R/-RWの再生はできません。
DVD+R(2層）に書き込む場合は、DVD+R Double Layer 2.4Xに準拠したディスクをご使用ください。
DVD+R(2層)ディスクの読出は、対応ドライブやプレーヤーをご使用ください。
※5　3倍速の読み出しは、3倍速対応でのディスクでのみ可能です。
※6　SDメモリーカードはデータをやりとりする相手機器でフォーマットしたものをご使用ください。SD I/Oカードには対応していません。SDメモリーカードおよびメモリースティックの著作権保護機能、高速転送機能には対応していません。
※7　CATV受信サービス（放送）が行われている地域でのみ受信可能です。CATVの受信には、CATV会社との契約が必要です。
※8　付属の専用ディスプレイで動作を確認しています。
※9　録画・再生する際にシーンによってはコマ落ちする場合があります。「StationTV」ソフトでテレビを表示している場合に利用が可能です。「StationTV」ソフトは著作権保護機能として、コピー防止信号(マクロビジョン方式、CGMS−A方式）に対応しております。録画禁止および録画1回可能な映像は正しく表示されず、再生、録画できません。
※10　IEEE1394端子にデジタルビデオカメラを接続して映像・音声を取り込む場合は、市販の4ピン-4ピン端子IEEE1394ケーブルが必要になります。動作状況によっては映像のコマ落ちが生じる場合があります。接続可能なデジタルビデオカメラについては、メビウスホームページ内サポート情報の機種別ページにて、順次ご案内します。
http://support.sharp.co.jp/mebius/
※11　市販されているすべてのIEEE1394対応機器と接続できるわけではありません。接続可能な機器については、メビウスホームページ内サポート情報の機種別ページにて、順次ご案内します。
http://support.sharp.co.jp/mebius/
※12　付属のBootable CD Creatorにより、リカバリCDを一回限り作成できます。市販のCD-Rが必要です。

- 付属のモニター（IT-PC32M2）の仕様については、**取扱説明書　モニター編**（別冊）の**付録**をご覧ください。

周辺機器（別売品）

- USB 接続 FD ドライブユニット CE-FD05
- ネットワークメディアプレーヤー CE-MR01

さくいん

記号・アルファベット

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

PC 編

● メビウス電子マニュアル

パソコンの画面にも専用のマニュアルがあります。
冊子のマニュアルとあわせてご覧ください。

● メビウスホームページ

http://www.sharp.co.jp/mebius/

インターネットをご利用の方は、上記のホームページもご活用ください。「メビウスホームページ」では、商品情報やQ&A、周辺機器情報、ダウンロード情報など、役立つ情報を掲載しています。

● 製品についてのお問い合わせ、修理のご相談は・・

別冊の「お客様サポートシステムのご案内」をご覧ください。

シャープ株式会社

本　　　　社　〒545-8522　大阪市阿倍野区長池町22番22号
情報通信事業本部　〒639-1186　奈良県大和郡山市美濃庄町492番地

この説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

(TINSJ3952ACZZ) ①